

2 松浦川の現状と課題
2.1 治水の現状と課題

2 松浦川の現状と課題

2.1 治水の現状と課題

2.1.1 洪水対策

松浦川では、未曾有の被害をもたらした昭和28年6月洪水以降、この洪水と同規模の洪水に対して、安全を確保するために、資産が集中する唐津市街部をはじめ下流より治水対策を進めてきました。この結果、平成18年4月時点の国管理区間における堤防整備状況は、堤防が必要な区間のうち完成堤防の区間の割合は約54%となっています。

しかしながら、松浦川の上流部、徳須恵川の上流部および巖木川の中上流部は依然として、堤防未施工区間が多く、洪水を流すことのできる河道の断面積も不足しているのが現状です。そのため、平成2年7月洪水の他、平成14年9月洪水、平成18年9月洪水等の中小洪水による浸水被害も度々発生しており、早期に治水対策を図る必要があります。また、流下能力不足区間には、大黒井堰、馬ノ頭伏せ越し、萩の尾堰（松浦川）および岩坂井堰（徳須恵川）など固定堰が存在します。固定堰は、洪水時に上流部への水位上昇を引き起こします。一方、これら固定堰は、土木遺産的にも非常に価値が高く、また、地域住民からも保全を要望されています。

表 2.1.1 松浦川水系の国管理区間における堤防整備状況

堤防延長 ^{※1}					
完成堤防	暫定堤防 ^{※2}	未施工区間	小計	不要区間	合計
45.0km (54%)	6.1km (7%)	32.8 km (39%)	83.9 km	38.0 km	121.9 km

(平成18年4月時点)

※1 延長は国管理区間の左右岸の計です。

※2 完成堤防に比べ、高さや幅が不足しているものをいいます。



写真 2.1.1 松浦川上流部の無堤区間の状況

(伊万里市大川町：27/000 付近)



写真 2.1.2 徳須恵川上流部の無堤区間の状況

(伊万里市南波多町：11/800 付近)



写真 2.1.3 巖木川中流部の無堤区間の状況

(唐津市巖木町：6/000 付近)

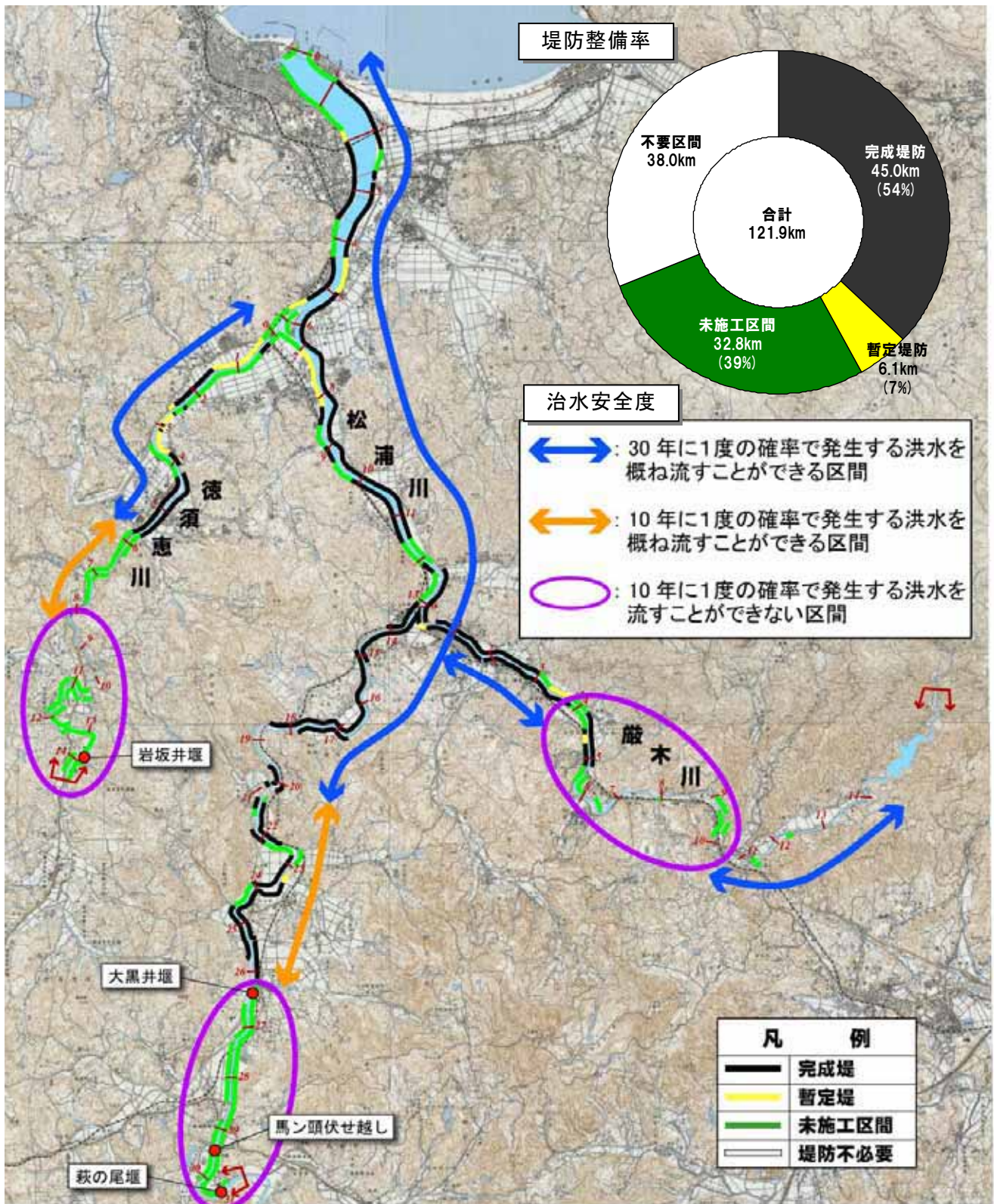


図 2.1.1 松浦川の堤防整備状況

(国土地理院発行の2万5千分の1地形図(唐津・浜崎・徳須恵・相知・伊万里・多久)を使用)

2 松浦川の現状と課題
2.1 治水の現状と課題

2.1.2 堤防の安全性

松浦川は過去に度重なる洪水を受けており、堤防は、その経験に基づいて、築造・補修が行われてきた歴史的構造物といえます。そのため、古い時代に築造された堤防は必ずしも工学的な設計に基づくものではなく、また、築造の履歴や材料構成なども明確にはわかっていません。その一方で、堤防の背後地には人口や資産が集積している箇所もあり、堤防の安全性の確保がますます必要となっています。

このように、堤防や地盤の構造がさまざまな不確実性を有している部分もあることから、堤防の安全性の点検を行い、機能の維持や安全性の確保を図るため、必要に応じた堤防強化対策を実施していく必要があります。

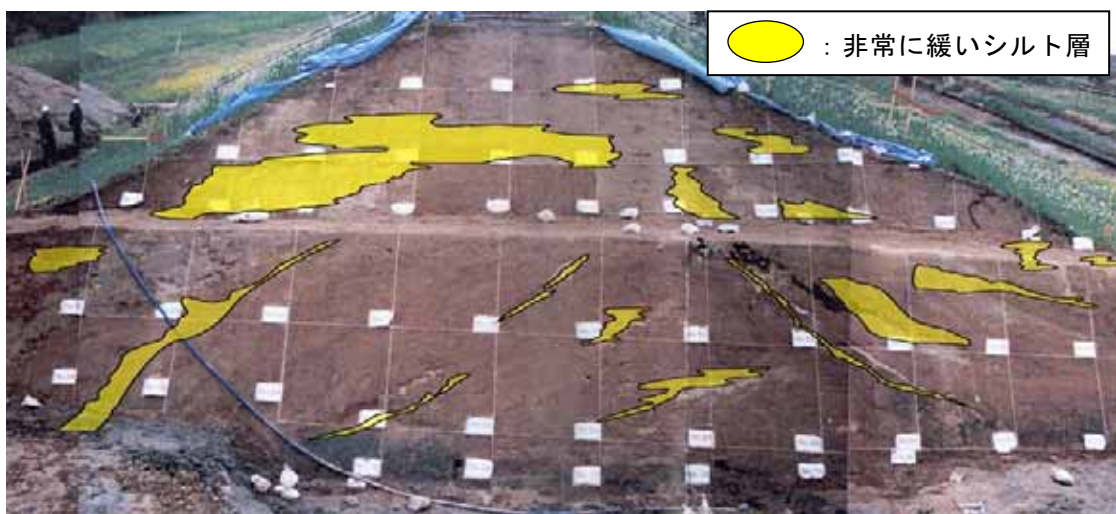


図 2.1.2 不均質な堤体材料の事例

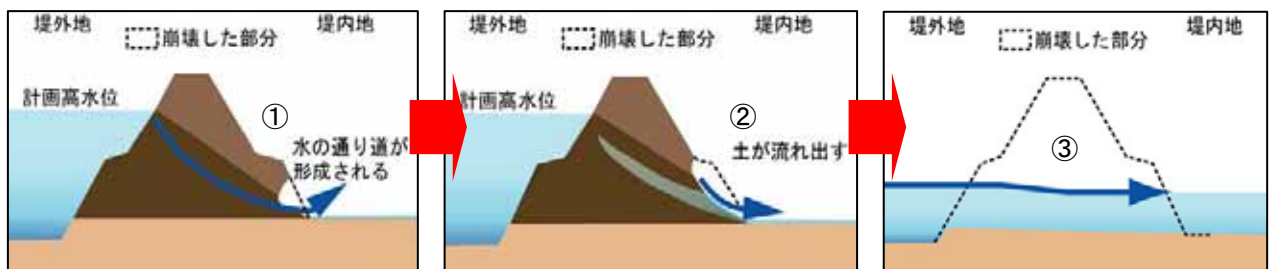


図 2.1.3 浸透による堤防決壊のイメージ図

河川の水位が高い状態が長時間続くと、堤防内の水位も上昇し、堤防の中に水の通り道が形成①されます。この水の通り道が、徐々に拡大すると、水とともに堤防の土が流れ出し②、堤防が崩れる③こととなります。

2.1.3 内水対策

松浦川では、過去に平成2年7月出水、平成5年8月出水、平成9年6・7・8月出水、平成11年6月出水、平成14年9月出水、平成18年9月出水時において内水が発生し、このうち平成2年7月出水では家屋浸水が発生しており、^{わただ}和多田救急排水機場や^{おきつる}沖鶴排水機場等を設置しました。これにより、下流市街部については、近年内水による家屋浸水は発生していません。また、排水ポンプ車等災害対策用機械の派遣や被災箇所の応急復旧等を実施することで洪水被害の拡大防止・軽減に努めています。

表 2.1.2 松浦川水系排水機場

排水機場名	設置位置	完成年度	計画排水量	吐出量	ポンプ形式
① 鏡救急排水機場	本川 右岸 1k530	平成7年度	4.0m ³ /s	1.0m ³ /s ×3台	水中斜流ポンプ
② 和多田救急排水機場	本川 左岸 1k800	平成9年度	6.0m ³ /s	1.0m ³ /s ×5台	水中斜流ポンプ
③ 沖鶴排水機場	本川 右岸 4k580	平成13年度	2.0m ³ /s	1.0m ³ /s ×2台	ゲートポンプ
④ 大川野救急排水機場	本川 右岸 23k885	平成10年度	2.0m ³ /s	1.0m ³ /s ×1台	水中斜流ポンプ

※ 鏡、和多田、大川野の3ヶ所の排水機場においては、救急内水事業の一環として、内水被害を軽減することを目的として建設されました。
※ 救急内水対策事業では、本明川の仲沖地区、松浦川の鏡、和多田、大川野地区、嘉瀬川の池上地区の3ブロック5地区を対象としており、これらの内水被害の状況に応じて移動式ポンプを移動させ、効果的な運用を図るものとしています。

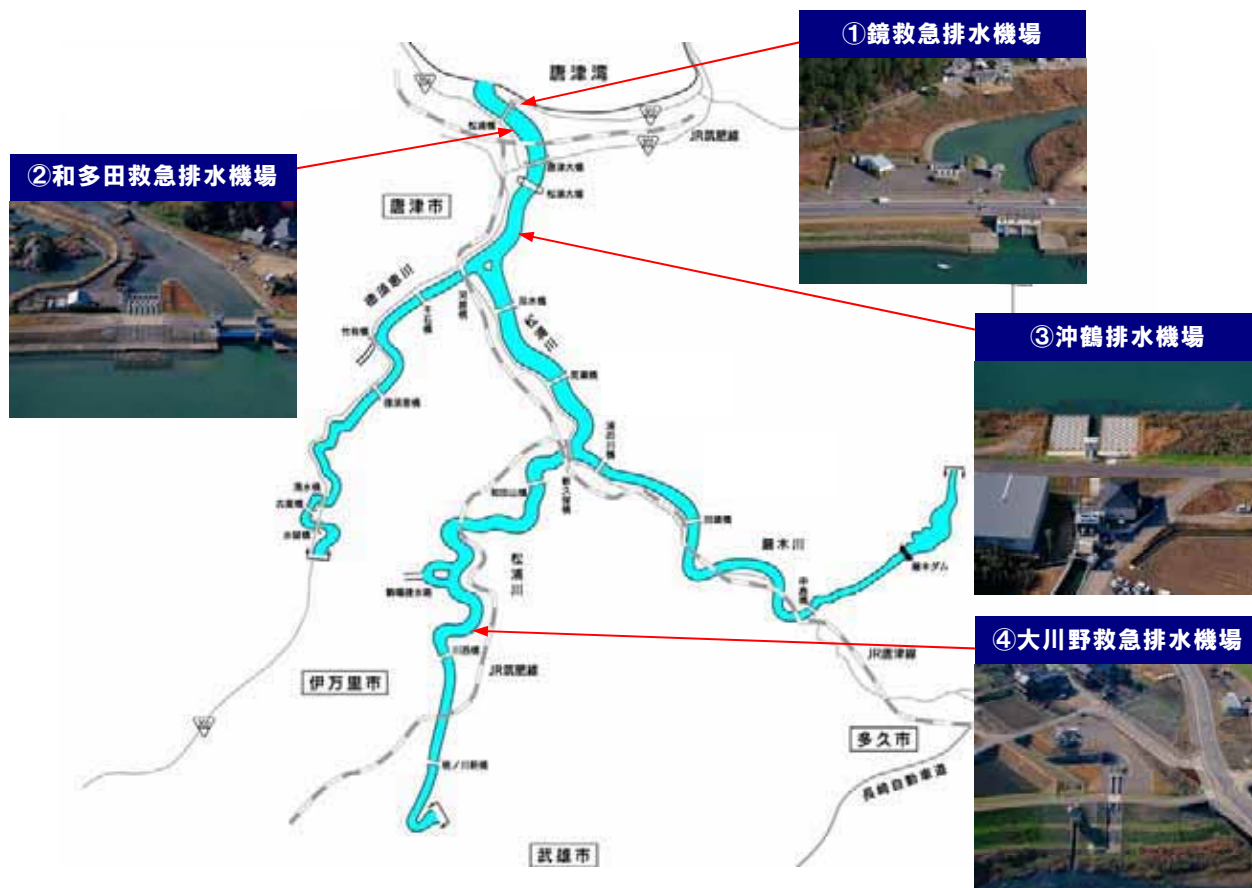


図 2.1.4 松浦川水系排水機場位置図

2 松浦川の現状と課題
 2.1 治水の現状と課題

2.1.4 河川の維持管理

(1) 河道の維持管理

松浦川本川、徳須恵川および巖木川の河床高は、経年的に上昇、低下といった顕著な変動傾向は見られません。しかし、洪水時には、上流域で生産された土砂が洪水とともに流送されてくるほか、河道内の河床も同時に変動する可能性があります。

土砂堆積により河床高が上昇すると、流下能力の不足が生じる可能性があります。一方、河床高が低下すると、洗掘により堤防や護岸など河川構造物が不安定となり、崩壊する可能性があります。

さらに、河床高の上昇は、砂州を極端に発達させ、植生繁茂が著しくなり、河畔林の過剰な繁茂が懸念され、洪水流下の阻害となる恐れもあります。

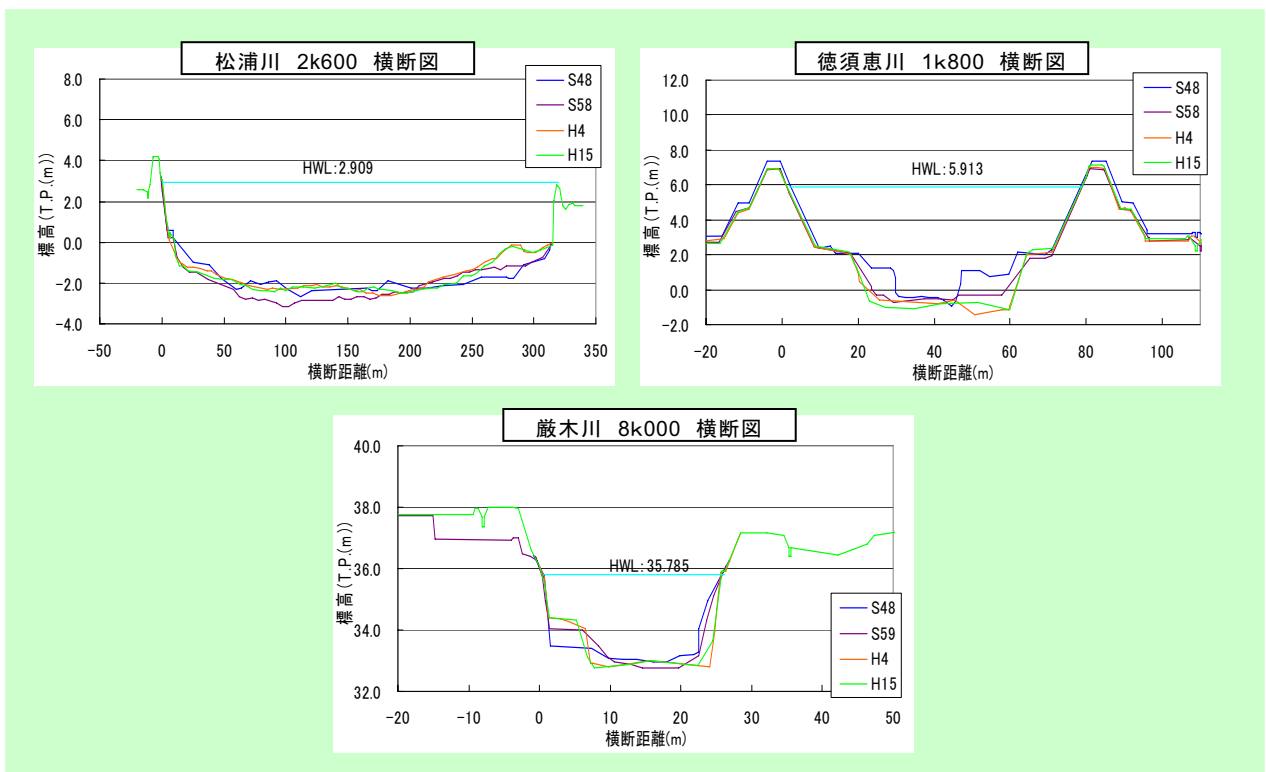


図 2.1.5 河床高の経年変化



写真 2.1.4 河道内に繁茂する樹木群

(2) 河川管理施設の維持管理

① 堤防および護岸

堤防や護岸は、経年的な老朽化や、降雨・浸透・洪水・地震等自然現象や車両乗り入れ等人為的な行為の影響を受けることにより、変形やクラック[※]等が発生し、放置すると出水時に変状の拡大や大規模な損傷に繋がります。また、堤防天端の不陸や護岸の老朽化は、水の浸透等外的影響により、クラックや堤体の土質のゆるみの進行に繋がり、堤防の弱体化をまねく恐れがあります。

松浦川では、護岸の老朽化とともに、堤防天端のクラックや小さな漏水等が確認されており、点検、変状原因の調査の継続とともに、補修対策を行う必要があります。

※ クラック：非常に幅の小さい亀裂やひび割れです。



写真 2.1.5 老朽化した護岸
(松浦川 15/850 右岸付近：唐津市佐里)



写真 2.1.6 天端部の不陸の状況
(厳木川 0/400 左岸付近：唐津市厳木町)

② 水閘門等（樋門・樋管、水門、排水機場、堰、ダム）

松浦川には、国が管理する施設として樋門・樋管、水門、排水機場、堰、ダム等、河川管理施設^{※1}が 257 箇所存在します。その多くは、昭和 50 年以前に築造されたもの（設置後 30 年以上経過）が約 7 割を占め、今後老朽化の進行等により施設更新や補修時期が集中することが考えられるため、施設の重要度や不具合の状況に応じた効率的、適切な維持管理を行う必要があります。

樋門・樋管、水門、排水機場、堰、ダム等の構造物については、ゲート等の機械設備や電気設備の機能保全とともに、コンクリート構造物の老朽化や出水、地震等によるコンクリートのクラックや構造物周辺の土質の空洞化の進行による漏水等の補修対策を行う必要があります。

また、近年、操作従事者の高齢化や局所的集中豪雨により、操作の負担が増加しており、操作環境の向上、遠隔操作、監視等による操作体制の高度化が必要となっています。

その他、松浦川には許可工作物^{※2}として、河川管理者以外が設置した橋梁、水門、樋門樋管、揚水機場等が多数設置されており、それらの施設の管理についても河川管理上支障がないかを確認し状況に応じた指導を行う必要があります。

※1 河川管理施設：河川管理者（国）が河川の治水・利水・環境の目的で設置したダム、堰、堤防、護岸等の工作物です。

※2 許可工作物：河川の土地内（河川区域内）に、河川管理者以外の者が、交通・農業・漁業・工業等の目的で設置した、橋、堰、樋管、栈橋などの工作物です。設置には河川管理者の許可が必要なため「許可工作物」と呼ばれています。

2 松浦川の現状と課題
 2.1 治水の現状と課題



写真 2.1.7 老朽化した樋管
 (徳須恵川 0/045 右岸付近：唐津市石志)

表 2.1.3 河川管理施設一覧（国管理区間）

種別	樋門・樋管	水門	排水機場	堰	床止め	ダム
施設数	246	2	4	1	3	1

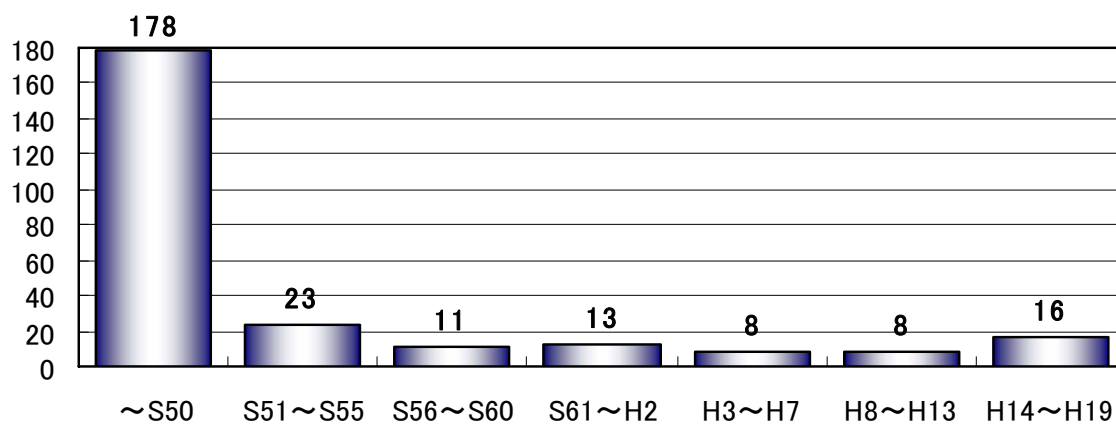


図 2.1.6 河川管理施設の設置年代と施設数

昭和 50 年以前に設置された河川管理施設は、松浦川水系（国管理区間）河川管理施設全体の約 7 割を占めます。

2.1.5 危機管理対策

これまで河川管理者は、想定する計画規模の洪水を安全に流下させるために、堤防やダム等の整備を進めてきており、着実に治水安全度を向上させてきました。一方で、今後の堤防等の整備には長い年月を要することから、整備途上において計画規模の洪水が発生する可能性があります。また、近年、全国各地で計画規模を超える豪雨が発生し甚大な被害を及ぼしており、平成18年9月の徳須恵川の出水においても畑川内観測所で時間雨量110mmを記録していることから、今後、計画規模を超える洪水の発生を想定する必要があります。

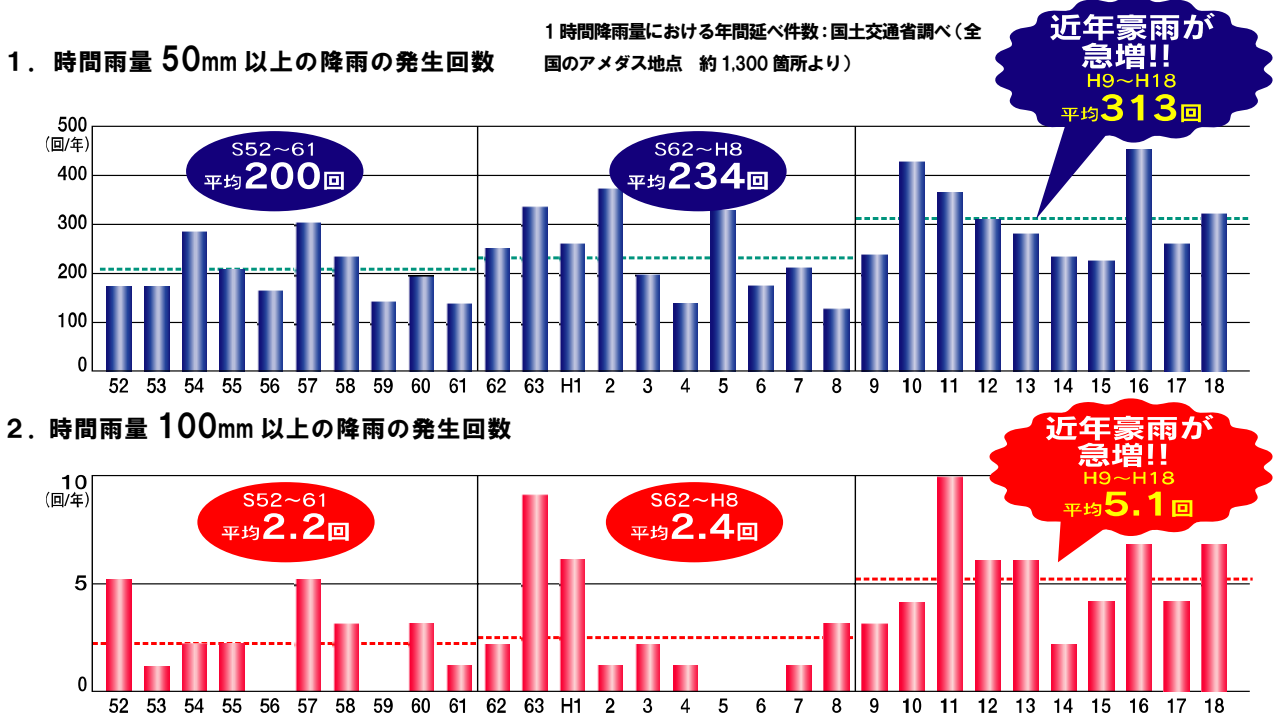


図 2.1.7 時間雨量 50mm、100mm 以上の降雨発生回数

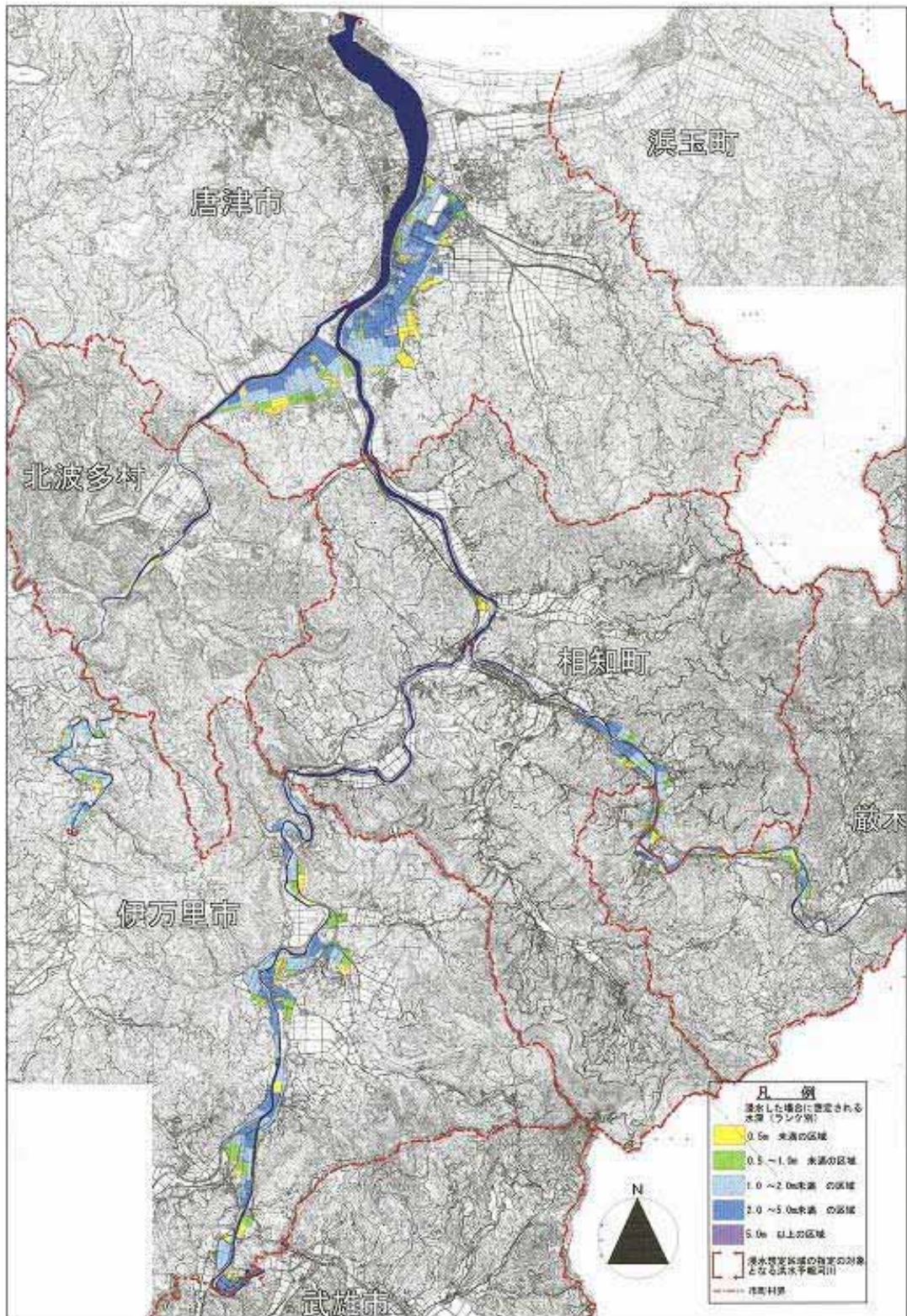
このような状況を踏まえ、施設整備（ハード整備）のみで災害を防ぐという対策から、洪水が氾濫することを前提にいかに被害を軽減するかという危機管理対策を講じる必要があります。

このため、ハード整備の推進とあいまって、避難や水防活動等のソフト対策を一体となって対処することが必要となっており、これまでも水防警報・洪水予報の発信、重要水防区域図の作成、IT化に伴う光ファイバーなどの整備と活用等のソフト対策を実施しています。

しかし、現状では、まだまだ避難活動や水防活動に資するための洪水ハザードマップなどの事前情報や災害時に迅速でわかりやすいリアルタイムの情報提供が十分になされていない状況です。また、普段のまちづくりや地域のコミュニティにおいて、危機管理の観点が十分に備わっておらず、少子高齢化など社会構造の変化とあいまって災害に対して弱い地域が形成されています。

このようなことから、今後、ソフト対策の充実を図り、自助・共助・公助の連携をより一層推進することが重要であるとの考えに基づき、平成16年12月に「新たな危機管理対策プラン（平成17年11月改訂）」を提案しています。

2 松浦川の現状と課題
 2.1 治水の現状と課題



※市町村については合併前のものです。

図 2.1.8 松浦川水系浸水想定区域図

(平成 14 年 11 月作成)

この浸水想定区域図は、松浦川水系において概ね 100 年に 1 回程度起こる大雨が降ったことにより、松浦川・徳須恵川・巖木川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。

2.2 利水の現状と課題

2.2.1 河川水の利用

松浦川の水は、現在、流域外も含めて農業用水として約 8,700ha の農地でかんがいに利用され、水道用水としては、唐津市、多久市等で、工業用水としては唐津市内で利用されています。また、水力発電としては、厳木川の厳木発電所、厳木第 2 発電所の他、厳木ダムを下ダムとする揚水式の天山発電所により、最大出力約 61 万 kW の電力供給が行われています。

基準地点牟田部における過去 45 年（昭和 34 年～平成 15 年）の流況は平均低水流量^{※1}約 3.5m³/s、平均渇水流量^{※2}約 2.1m³/s となっています。

※ 1：低水流量とは 1 年を通じて、275 日はこれより下らない流量

※ 2：渇水流量とは 1 年を通じて、355 日はこれより下らない流量



図 2.2.1 松浦川水系取水排水系統と主な利水施設

2 松浦川の現状と課題
2.2 利水の現状と課題

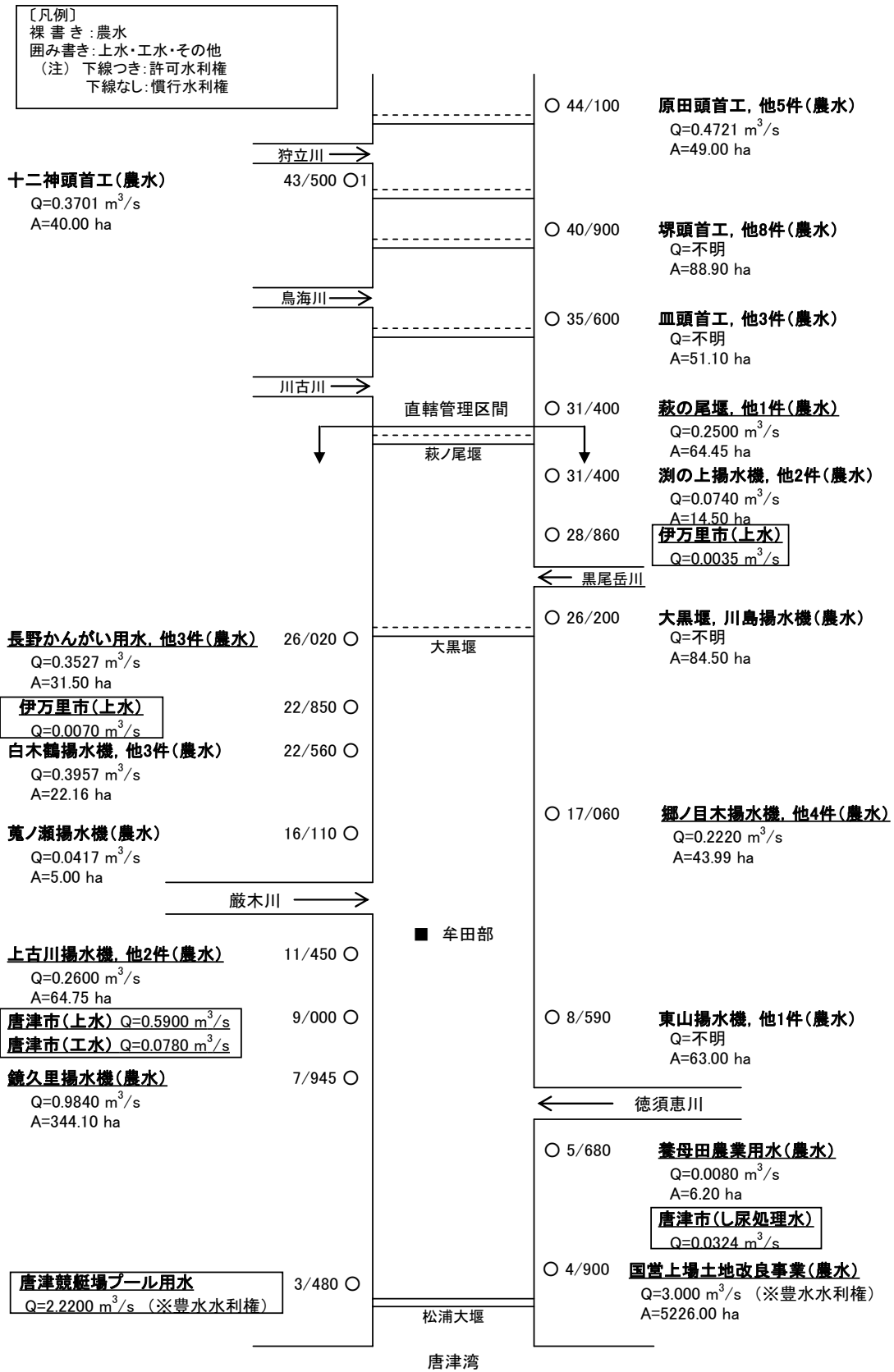


図 2.2.2 松浦川水系の主な水利利用の現況模式図

牟田部地点から下流の水利権[※]としては、農業用水 4.2520m³/s、水道用水 0.5900m³/s、工業用水 0.0780m³/s、その他 2.2524m³/s の合計 7.1724m³/s の許可水利があり、このほかにかんがい面積 63ha の慣行水利があります。

※：水利権とは河川の水を使用（取水や貯留等）する権利のことです。

水利権には河川管理者の許可を受けた許可水利権と旧河川法施行前（明治 29 年以前）から主に農業用水として慣行的に占有している慣行水利権とがあります。

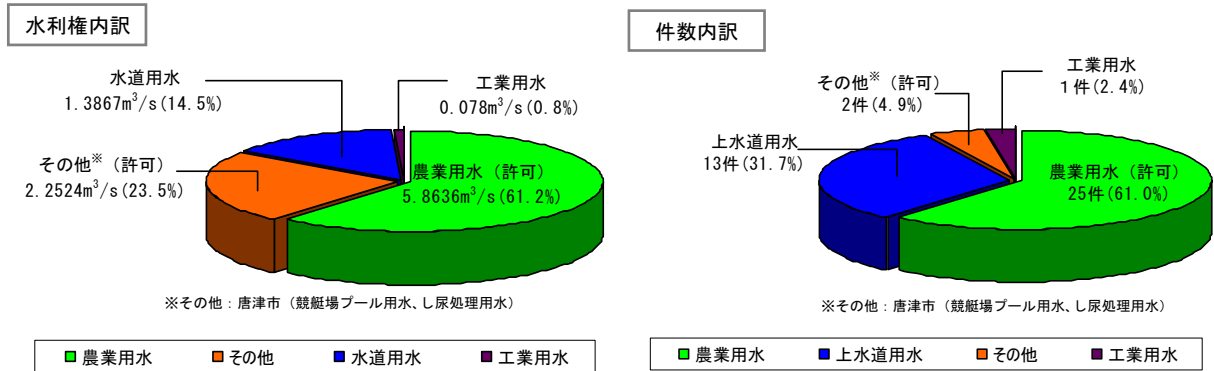


図 2.2.3 松浦川水系における水利権（発電を除く）

表 2.2.1 松浦川水系における水利権一覧表

水利使用目的	件数	水利権量 (m ³ /s)	かんがい面積 (ha)	備考	
農業用水	許可	25	5.8636	5,895.03	
	慣行	756	30.1176	2,797.00	
	計	781	35.9812	8,692.03	
上水道用水	13	1.3867	—	唐津市(2)、伊万里市(2)、武雄市(2)、多久市(1)、相知町 [※] (2)、厳木町 [※] (2)、山内町 [※] (1)、北波多村 [※] (1)	
工業用水	1	0.0780	—	唐津市	
発電用水	3	145.8400	—	発電最大出力60万8千kw	
その他	許可	2	2.2524	—	唐津市（競艇場プール用水、し尿処理用水）
	慣行	12	—	—	雑用水
	計	14	2.2524	—	
合計	812	185.5383	8,692.03		

水利使用目的	件数	水利権量 (m ³ /s)	かんがい面積 (ha)	備考
農業用水	許可	25	5.8636	5,895.03
	慣行	34	1.8187	492.35
	計	59	7.6823	6,387.38
上水道用水	8	0.7867	—	唐津市(2)、伊万里市(2)、相知町 [※] (1)、厳木町 [※] (2)、北波多村 [※] (1)
工業用水	1	0.0780	—	唐津市
発電用水	0	—	—	
その他 (許可)	2	2.2524	—	唐津市（競艇場プール用水、し尿処理用水）
合計	70	10.7994	6,387.38	

※相知町、厳木町、北波多村は合併（H17.1.1）により現在は唐津市、山内町は合併（H18.3.1）により現在は武雄市

2 松浦川の現状と課題
2.2 利水の現状と課題

2.2.2 渇水の発生状況

松浦川水系における渇水の状況をみると、昭和30年代、40年代に多く発生しています。松浦川流域の大半は、低い丘陵地に囲まれ山が浅いため水枯れを起こしやすく、これらの渇水被害を背景として、治水と利水を目的としたダムが建設されてきました。

また、「佐賀県総合計画 平成12年3月」では、生活水準の向上等に伴う水需要の増加・多様化の傾向に対処するため、水資源開発施設の整備や水の循環利用と多目的利用、再生水及び雨水の利用促進等が必要とされています。

これに対して、昭和49年の松浦大堰の完成、昭和62年の巖木ダムの完成および流域内の県営ダム（伊岐佐ダム、平木場ダム、本部ダム、狩立ダム、日ノ峯ダム）によって、沿川の農業用水や水道用水・工業用水の安定的な補給に寄与しています。

その結果、戦後最大の少雨となった平成6年渇水においても、大きな渇水被害には至りませんでした。

しかし、近年少雨と多雨の変動幅が増大しており、渇水が発生する可能性が懸念されています。

表 2.2.2 松浦川流域における主な渇水被害

渇水年月	渇水被害の状況
昭和42年5月～10月	・農業用水不足による水稲被害、給水制限の実施
昭和43年3月～6月	・伊万里市、多久市で農作物の被害
昭和44年8月～9月	・佐賀県北西部で干ばつによる被害
昭和45年1月	・佐賀県全般で干ばつによる被害
昭和53年4月～8月	・佐賀県北部、西部で小雨、渇水、干ばつ被害
昭和57年6月～7月	・唐津市において給水制限の実施
昭和59年7月～8月	・農業用水不足による水稲被害： 黒乾(281ha)、白乾(20ha)、枯死(1ha)
平成6年6月～8月	・農業用水不足による水稲被害 ・本部ダムから農業用水として3万m ³ 緊急放流

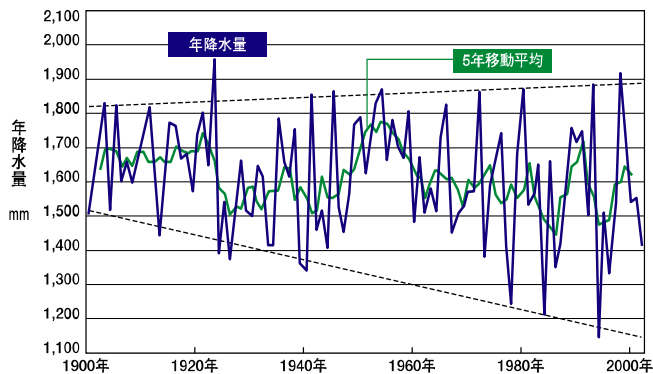


図 2.2.4 日本の年降水量の経年変化
(データ出典：「日本の水資源」に加筆)

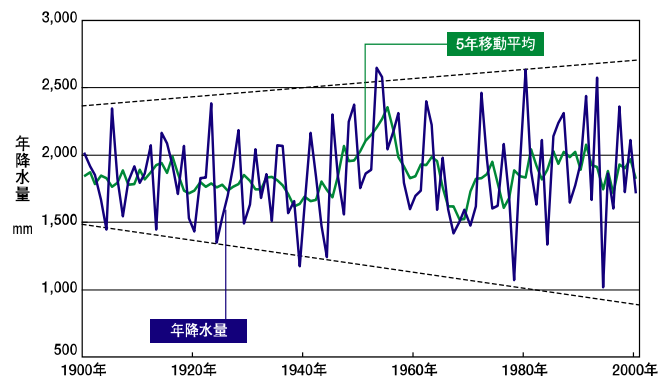


図 2.2.5 佐賀の年降水量の経年変化
(データ出典：佐賀地方気象台)

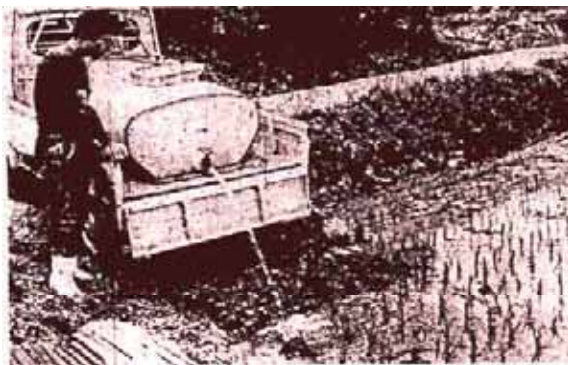
【松浦川水系における渇水被害状況】



提供：佐賀新聞社



提供：佐賀新聞社



昭和 53 年渇水時の状況
給水タンクから田圃へ給水する住民



平成 6 年渇水時の状況
水位低下により樋管からの取水が困難となったため、松浦川から取水ポンプにより直接取水する住民



平成 6 年渇水時の状況
松浦川の様子（桃川橋上流）



平成 6 年渇水時の状況
松浦川の様子（宮ノ瀬橋下流）

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題

2.3.1 河川環境

(1) 松浦川の河川環境の特徴

松浦川の河川環境は、「汽水域」、「瀬と淵」、「河畔林」、「蛇行河川」により特徴付けられています。

汽水域は、干潮時に広大な砂質干潟が出現し、ハクセンシオマネキやハマツナ等の希少な生物の生息・生育の場となっています。中上流域の河道は、蛇行に富み、瀬・淵が連続し、メダケやオオタチヤナギなどの河畔林が発達しており、多様な生物の生息環境を形成しています。特に、アユの産卵場となっている巖木川合流点下流の早瀬、コチドリやイカルチドリの休息の場に利用される貴重な砂礫河原、ホタルの生息場である駒鳴地区の蛇行河川部、オヤニラミやアリアケギバチなどが生息し、瀬・淵が卓越した溪流環境を呈する巖木川上流部などには、良好な河川環境が存在します。

これら特徴的な河川環境を有する松浦川は、周辺の自然環境と一体となって地域の生態系を維持していく上で重要な役割を担っています。



図 2.3.1 松浦川における注目すべき環境

(2) 動植物の生息・生育状況

① 松浦川上流部【国管理区間上流端から中松浦鉄道橋までの区間】

松浦川上流部は、人工林を主体とした低い丘陵地に囲まれたやや開けた平地となっており、狭い田園地帯を蛇行しながら流下します。河床は主に砂礫で構成され、所々岩盤が露出する区間もあります。河床勾配は 1/500～1/1,300 程度と溪流的な河川と比べると緩やかです。

河川周辺は、狭い農地の中に集落が点在する田園風景を形成しており、河川幅は下流に比べてさらに狭くなり、瀬・淵が連続しています。高水敷は狭く、河岸のほとんどで護岸が整備されていますが、メダケ、オオタチヤナギなどの河畔林が多く見られ、上流にいくにしたがって、河畔林に覆われている区間が多く存在します。また、水際には、オギやツルヨシ群落が存在します。

河床は岩盤で覆われ、所々に砂礫が堆積しており、オイカワ、カワムツなどが生息しています。特に大黒井堰から中松浦鉄道橋上流付近はイダ（ウグイ）の産卵場となる早瀬が点在し、本種にとって重要な河川環境となっています。また、魚食性のヤマセミやカワセミが多く確認され、砂礫河原にはコチドリやイカルチドリが見られます。

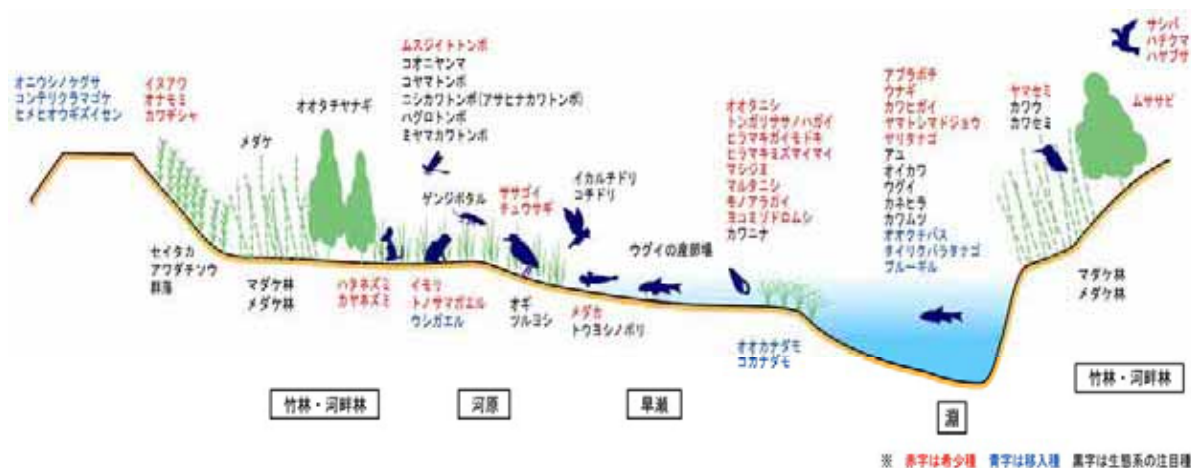


図 2.3.2 松浦川上流部横断模式図



写真 2.3.1 上流部の状況（大黒井堰下流）

（松浦川 22/000～24/000 付近：伊万里市）

蛇行に富んだ上流部の河道は、瀬・淵が連続し、生物の良好な生息・生育空間となっています。



写真 2.3.2 上流部の状況（大黒井堰上流）

（松浦川 29/000～31/000 付近：伊万里市）

大黒井堰の湛水区間を抜けると、再び蛇行に富んだ河道となっています。

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題



写真 2.3.3 河畔林に覆われる上流部

(松浦川 29/000 付近：伊万里市松浦町桃川)
河畔林は、鳥類のねぐらとなったり、河川にせり出した枝葉は水面に影を落とし、魚類の集まる場を提供します。



写真 2.3.4 河岸に繁茂するメダケ

(松浦川 22/200 付近：伊万里市)
メダケは、竹の一種で、常緑の笹をつけ、河岸に多く群生しています。イダやオイカワなどの集まる場を提供し、ヤマセミやカワセミなどの採餌場となっています。



写真 2.3.5 ウグイ (イダ)

【コイ目コイ科】

河川型は、主に上流域の淵などに単独または群れで動き回るものがほとんどです。降海型は、主に河口から沿岸域で生活し、2月下旬頃から春にかけて産卵のために遡上します。

なお、松浦川のウグイは佐賀県では唯一降海型の集団です。



写真 2.3.6 カワセミ

【ブッポウソウ目カワセミ科】

スズメより大きく（約 17cm）肉食性でウグイ、ドジョウ、ハゼなどの魚を食べます。平地の河川沿いにつがいの単位でなわばりを持ち、河口部にいることもあります。



写真 2.3.7 ヤマセミ

【ブッポウソウ目カワセミ科】

カワセミより大きく（約 38cm）肉食性でヤマメ、ウグイ、フナなどの魚を食べ、カエルや昆虫も食べます。河川では主に上流、中流部に見られます。

○佐賀県：絶滅危惧 I 類種

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題

一方、駒鳴地区の旧川部は、流れが緩く、水際はメダケ、ツルヨシ群落で覆われており、このメダケ林はツバメやサギ類の生息場となっているとともに、ヤマセミやカワセミが見られます。またメダカやゲンジボタル、ムスジトンボやハグロトンボ等が生息し、良好な河川環境を有しています。

また、桃川地区（親水公園）ではゲンジボタルが確認されており、良好な河川環境を有しています。



写真 2.3.8 駒鳴旧川部の河道状況

（松浦川 20/000 付近：伊万里市大川町駒鳴）
駒鳴地区旧川部は、湿生植物であるツルヨシ等が繁茂し、ゲンジボタルの餌となるカワニナも多く存在し、生物の良好な生息環境となっています。



写真 2.3.9 桃川地区の河道状況

（松浦川 28/600 付近：伊万里市松浦町桃川）
桃川親水公園は、せせらぎ水路やホタル水路などが整備され、初夏にはゲンジボタルが見られます。



写真 2.3.10 ゲンジボタル

【コウチョウ目ホタル科】

日本で「ホタル」といえばこの種類を指すことが多く、もっとも親しまれているホタルです。



写真 2.3.11 メダカ

【ダツ目メダカ科】

水田脇の小溝や浅瀬、水深のあるクリークでは岸辺の抽水植物帯に群れて生活する止水性の魚です。

○環境省：絶滅危惧Ⅱ類
○佐賀県：絶滅危惧Ⅱ類種

2 松浦川の現状と課題

2. 3 河川環境の現状と課題

② 松浦川中流部【中松浦鉄道橋から松浦大堰湛水域上流端】

松浦川中流部は、上流部同様、人工林を主体とした低い丘陵地に囲まれたやや開けた平地となっており、狭い田園地帯を蛇行しながら流下します。河床は主に砂礫で構成されており、砂礫が堆積しているところには河原が形成されています。河床勾配は、1/1,700程度と上流に比べるとやや緩やかになります。

河川周辺は、狭い農地の中に集落が点在する田園風景を形成しており、河川幅は下流に比べてやや狭くなり、瀬・淵が連続しています。高水敷は狭く、堤防法面には外来種であるセイタカアワダチソウ等が優占し、河道内樹木はわずかに存在するのみです。河岸のほとんどで護岸が整備されていますが、山付き部にはメダケやマダケ、オオタチヤナギ群落などの河畔林が存在します。河道内には、所々でツルヨシ群落が中洲や寄洲で発達しつつあり、水際の緩やかな箇所にはメダカなどの魚類が生息しています。

瀬と淵が連続している河道は、アユ、オイカワ、カワムツ、カマツカ、トウヨシノボリなどの生息場となっており、巖木川合流部より下流区間は、松浦川水系で貴重なアユの産卵場があり、松浦川が南限とされるサケの産卵も確認されています。また、魚食性のササゴイ、ミサゴ、ヤマセミ、カワセミなどが確認され、伊岐佐川との合流点付近には、水系最大の砂礫河原が存在し、コチドリやイカルチドリの休息の場となっています。

なお、16km 付近に位置する「アザメの瀬」は、自然再生事業として整備され、「氾濫原的湿地の再生」と「人と生物のふれあいの再生」の先進的な事例となっており、コイやフナ、ドジョウなどの魚類の産卵も確認されています。

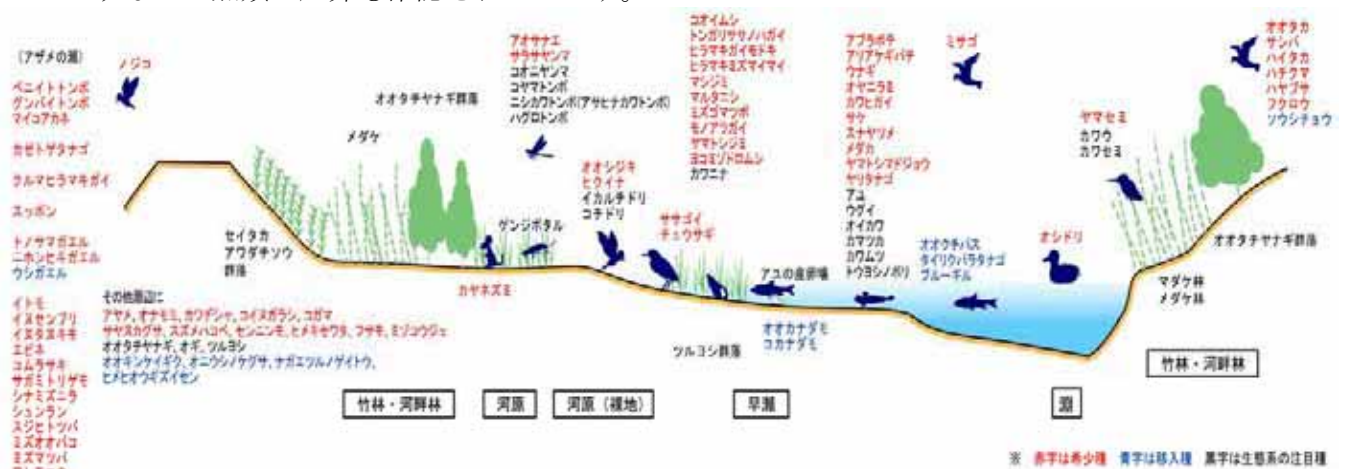


図 2.3.3 松浦川中流部横断模式図



写真 2.3.12 アザメの瀬
(唐津市佐里：河口からの距離 16km 付近)



写真 2.3.13 アザメの瀬近景
(唐津市佐里：河口からの距離 16km 付近)

2 松浦川の現状と課題
2.3 河川環境の現状と課題



写真 2.3.14 松浦川中流部の状況

(松浦川 18/000 付近：唐津市相知町)
狭い田園地帯を蛇行しながら流下しています。



写真 2.3.15 松浦川水系最大の砂礫河原

(松浦川 12/000 付近：唐津市相知町)
コチドリやイカルチドリの休息場となっています。



写真 2.3.16 中流部の河道状況

(松浦川 15/000 付近：唐津市相知町佐里)
護岸が整備されていますが、ツルヨシ群落などが繁茂しています。



写真 2.3.17 アユの産卵場となっている早瀬

(松浦川 12/000 付近：唐津市相知町)
松浦川水系でも貴重な産卵場となっています。



写真 2.3.18 イカルチドリ

【チドリ目チドリ科】
コチドリより少し大きく白っぽく、またアイリングがはっきりしません。暖地では留鳥ですが、北日本のものは冬季は暖地に移動します。



出典：佐賀の淡水魚、佐賀新聞社
写真 2.3.19 アユ

【サケ目アユ科】
仔魚は海に降りた当初は沿岸域に広く分布し、昼は低層に、夜は表層に生息します。春になり遡上すると、中流から上流域の大石や岩盤のある瀬に縄張りを形成して定着します。縄張りは平瀬や早瀬および淵の一部に形成します。

2 松浦川の現状と課題

2. 3 河川環境の現状と課題

③ 松浦川下流部【松浦大堰湛水区間】

松浦川下流部は、本川 11km 付近から松浦大堰に至る湛水区間であり、途中徳須恵川を合わせます。河床は主に砂で構成され、河床勾配は 1/10,000 以上と非常に緩い勾配です。

河川周辺は、低山に囲まれた中上流部を抜け、8km 付近から開けた平野部となり、住宅・農地等が存在します。河川幅は徳須恵川合流点付近までは広く、その上流では、やや狭くなっています。

高水敷は比較的狭く、堤防法面には外来種であるセイタカアワダチソウやクズ群落等が優占し、河道内樹木はわずかに存在するのみですが、水際にはメダケ、オギ、オオタチヤナギ群落やツルヨシ等の湿生植物群落やフサモなどの注水植物が存在し、モノアラガイ等の底生生物が生息しています。広大な湛水区間は、オイカワなど松浦川でよく見られる魚種に加えてコイ、フナなどの止水性の魚も多く見られます。また、オオクチバスやブルーギルといった外来種も生息しています。鳥類では、カモ類・カモメ類の休息の場となっている他、ササゴイ、オオジシギなどが見られます。徳須恵川との合流点にある旧川部は、松浦大堰の湛水による緩やかな流れにより、ヨシやマコモ、メダケ等からなる止水性の湿地が広がっており、ゴイサギを中心としたサギ類の集団ねぐらが確認されています。また、コオニヤンマやコヤマトンボなどの昆虫類が生息しています。

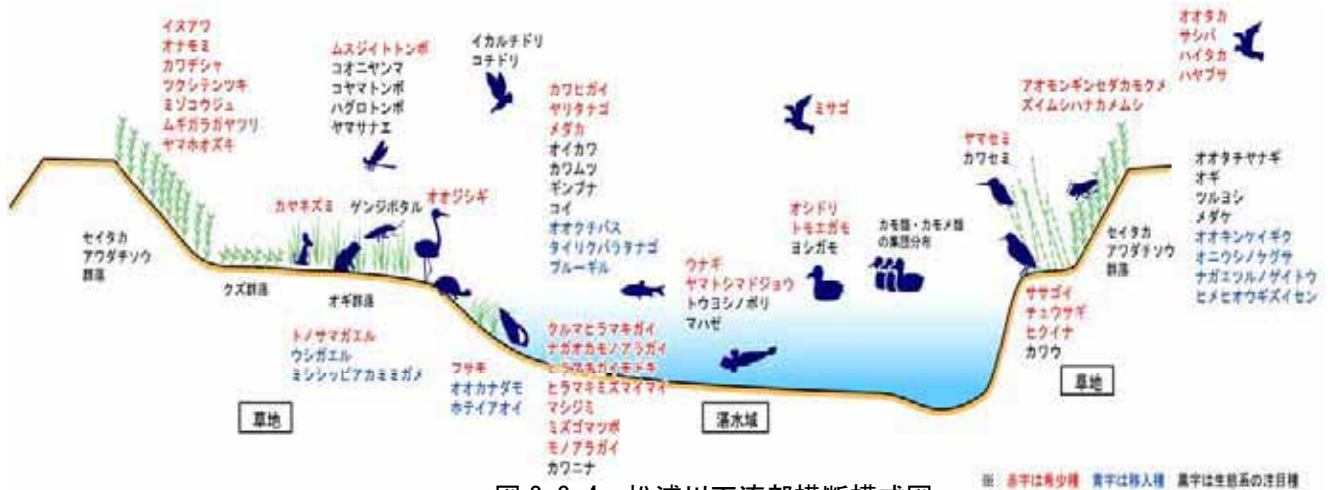


写真 2. 3. 20 湛水区間上流部の状況

(松浦川 10/000 付近：唐津市牟田部)

低山に囲まれた中上流部を抜け、緩やかに流下します。



写真 2. 3. 21 徳須恵川との合流点および旧川部の状況

(松浦川 6/000 付近：唐津市山本・久里付近)

徳須恵川を合わせ、川幅が広がり、平野部を流下します。

2 松浦川の現状と課題
2.3 河川環境の現状と課題



写真 2.3.22 松浦大堰湛水区間の状況

(松浦川 6/000 付近：上久里橋下流)

広大な湛水域では、アユ、オイカワの他、オオクチバス等の外来種も見られます。



写真 2.3.23 旧川部の湿地環境

(松浦川 6/000 付近)

止水性の湿地が広がり、さまざまな動植物が生息・生育しています。



写真 2.3.24 モノアラガイ

【モノアラガイ科】

浅くて流れが緩やかな淀みと、水生植物が一体となった環境を好みます。高水温は好まず、都市部の生活排水などに汚染された川には生息できません。

○環境省：準絶滅危惧



写真 2.3.25 オイカワ

【コイ科】

関東以西の河川や湖沼に広く分布しています。成魚はシリビレが大きく、産卵期の雄は、鮮やかな婚姻色が現れます。全長は15cmほどになります。水生昆虫や陸上昆虫が川に落ちたもの、石に着いたけい藻やらん藻などを食べます。



写真 2.3.26 ゴイサギ

【コウノトリ目サギ科】

湖沼や池、河川などで一年中見られます。成鳥は全体が灰色で、頭と背中が紺色をしています。成鳥の頭には冠羽(かんう)が2本あります。



写真 2.3.27 コオニヤンマ

【トンボ目サナエトンボ科】

赤褐色あるいは黒褐色の著しく扁平な広葉状の特異な体型をしたヤゴが特徴的です。流れの緩やかな川の砂底泥にいます。

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題

④ 松浦川河口部【松浦大堰から河口までの感潮区間】

松浦大堰から河口にかけての河口部は、松浦川流域で最も人口が集中する唐津市街部を緩やかに流下します。河床は主に砂で構成され、河床勾配は 1/10,000 以上の非常に緩い勾配となっており、川幅は広く、広大な水面を有する汽水域となっています。

河川周辺は、人家が密集する平地であり、高水敷は狭く、河道内樹木はほとんど存在せず、スズメノヒエやセイタカアワダチソウ等が優占します。河口部は内湾状の閉鎖的な汽水域となっており、左岸側を中心に干潟が形成され、水際部では、ハママツナやシオクグ、ウラギク等の塩生植物群落がわずかながら存在しています。

干潮時に出現する広大な砂質干潟には、ハクセンシオマネキやマゴコロガイ、アリアケモドキ等の希少な生物の他、カニ・エビ類など多くの底生生物が生息しており、魚類では、ヒイラギやハゼ科魚類等の海水・汽水魚が確認されています。干潟は鳥類の生息・採餌場であり、満潮時の広大な水面はカモ類、カモメ類等の休息の場となっています。

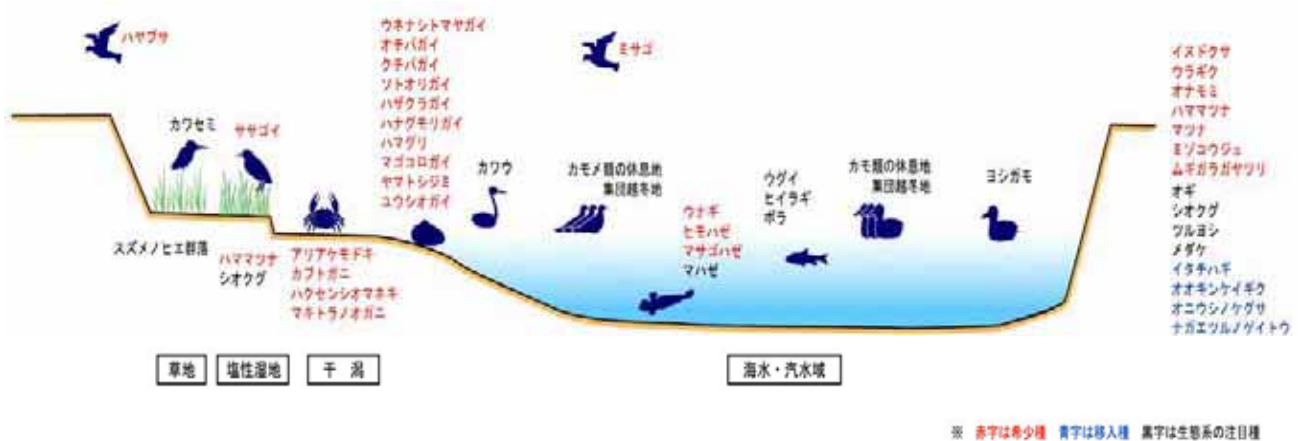


図 2.3.5 松浦川河口部横断模式図



写真 2.3.28 河口部の状況

河口部周辺には流域で最も人口が集中する唐津市街地が形成されています。また、河口付近が狭いため、河口部は内湾状の地形となっています。



写真 2.3.29 河口砂質干潟

この広大な干潟は、松浦川及び玉島川などの河川の運ぶ土砂が、玄界灘の波により穏やかに堆積されて陸地となったと考えられています。砂質干潟には、干潟特有の底生生物が多く生息しています。



写真 2.3.30 ウラギク

【キク科】

海岸や河口などの潮の干満によってたえず塩水をかぶるような湿地に群生する越年草です。高さ30～60cmにもなります。葉は細く、やや厚くてつやがあり、頭花は径2cmほどで、茎の上部で枝を分けて円錐状に多数つきます。

○環境省：絶滅危惧Ⅱ類



写真 2.3.31 ハクセンシオマネキ

【十脚目スナガニ科】

内湾の奥や河口域の泥質干潟に生息し、高潮線付近の大潮でないと冠水しないような場所を好みます。雄の鉗脚は片方が大きく、雌は両方とも小さい、甲幅35mm前後の小型のカニです。

○環境省：絶滅危惧Ⅱ類

○佐賀県：情報不足種

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題

⑤ 徳須恵川【国管理区間上流端から本川合流点までの区間】

徳須恵川は、河川形態などからみると、松浦川合流点から 5km 付近を境に下流部と上流部に区分されます。

上流部は、低山に囲まれた田園地帯を蛇行しながら流下します。河床は、主に砂礫で構成され、所々岩盤が露出しています。河床勾配は、1/340～1/530 と急になりますが、12km 付近からは取水堰が多く設置され、湛水区間が連続しています。河川周辺は低山に囲まれ、10km 付近までは周囲に人家がなく、川幅は極端に狭くなり早瀬が卓越し、蛇行を繰り返しながら流下します。10km 付近から上流は、やや開けた平地に農地が広がり、住家が点在しています。高水敷はほとんどなく、メダケ、オオタチヤナギを中心とした河畔林が繁茂し、水面を覆っています。河道内には所々砂州がつき、オギやツルヨシ等が繁茂し、多様な水際を形成しています。激しく蛇行した河道は、瀬・淵が連続し、瀬はアユ、オイカワ、カワムツ、トウヨシノボリ等の生息場となり、淵や取水堰の湛水区間は、メダカ、モノアラガイ等の生息場となっています。また、合流点から 8km 付近の徳須恵川に流入する水路には、カスミサンショウウオが確認されています。河畔林は、ヤマセミ、カワセミの採餌場となっています。

下流部は、本川から続く松浦大堰の湛水区間であり、低平地を緩やかに蛇行しながら流下します。河床は主に砂で構成され、河床勾配は 1/2,000 程度の緩い勾配となっています。河川周辺は、低山に囲まれた上流部を抜け、開けた平野部となっており、住宅・農地等が存在します。高水敷は比較的狭く、堤防法面には外来種であるセイタカアワダチソウ等が優占し、河道内樹木はわずかに存在するのみですが、水際にはメダケ、オギ、ツルヨシ群落等が存在し、多様な水際空間になっており、モノアラガイ等の底生生物の他、メダカ等の魚類の生息の場となっています。湛水区間は、オイカワ、カワムツ、トウヨシノボリなど松浦川でよく見られる魚種に加えてフナ、コイなどの止水性の魚も多く見られます。また、オオクチバスやタイリクバラタナゴといった外来種も生息しています。鳥類では、カモ類・カモメ類の休息の場となっている他、ササゴイなどのサギ類が見られます。また、合流点から 3km 付近のオオタチヤナギ群落は、水系で唯一確認されているササゴイの集団繁殖地となっています。

2 松浦川の現状と課題
2.3 河川環境の現状と課題

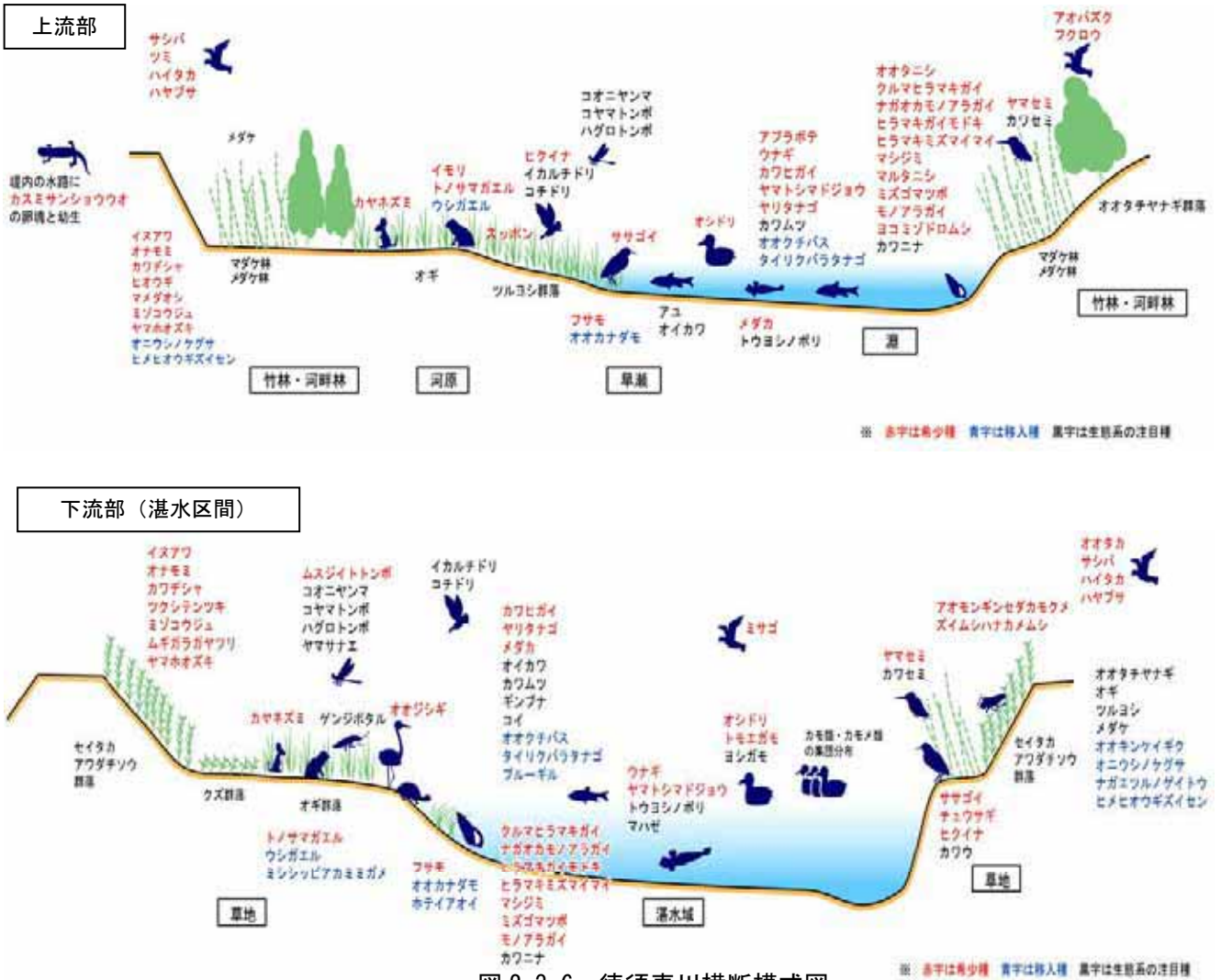


図 2.3.6 徳須恵川横断模式図



写真 2.3.32 徳須恵川下流部の状況
(徳須恵川 2/000~4/000 付近：唐津市千々賀・石志)
低山に囲まれた上流部を抜け、緩やかに蛇行しながら流下します。



写真 2.3.33 徳須恵川上流部の状況
(徳須恵川 10/000~13/000 付近：伊万里市南波多町)
低山に囲まれた田園地帯を激しく蛇行しながら流下します。

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題



写真 2.3.34 徳須恵川下流の湛水区間

(徳須恵川 1/000 付近：唐津市石志)
松浦大堰の湛水区間となっている徳須恵川下流は、ツルヨシ群落などが水際空間を形成しています。



写真 2.3.35 徳須恵川上流の河畔林

(徳須恵川 12/600 付近<水留橋上流>：伊万里市南波多町)
河岸に繁茂する河畔林については、メダケ、マダケ、オオタチヤナギがそのほとんどを占めています。



写真 2.3.36 オオタチヤナギ

【ヤナギ科】

河川の下流部で湿った岸辺に生息し、しばしば群生しヤナギ林を形成し、幹は直径 30cm、高さは 15m に達します。



写真 2.3.37 カスミサンショウウオ

【サンショウウオ目サンショウウオ科】

全長 7～12.5cm。西日本に分布する日本固有種のサンショウウオです。体に小さな斑点があり、尾の背中側から腹、側にかけてオレンジ色の縁取りがあるのが特徴です。湧水や水田などが隣接した森林や草地を好み、人里の水田地帯にも生息します。

○環境省：絶滅危惧Ⅱ類

○佐賀県：準絶滅危惧種

⑥ 巖木川【国管理区間から本川合流点までの区間】

巖木川は、河川形態などからみると、松浦川合流点から7km付近を境として、下流部と上流部及び巖木ダム貯水池の3つに区分されます。

巖木ダム貯水池は、オシドリなどの休息場となっています。また、水際部は、カジカガエル等の両生類やゲンバイトンボ、コオニヤンマなどのトンボ類が生息しています。また、貯水池周辺では、ハチクマ、ハヤブサ、ミサゴなどの貴重な鳥類の飛来が確認されています。

上流部は、比較的高い山に囲まれた中を、急勾配で流下する蛇行河川であり、河床は下流と同じ岩盤が露出しています。河床勾配は1/40~1/200とさらに急となり、早瀬が卓越する山地溪流型河川となっていますが、所々に取水堰が存在しています。河川周辺は、比較的高い山に囲まれた狭い平地となっており、農地の他、住家が点在しています。高水敷は存在せず、川幅も狭くなり、河岸にはオギ、ツルヨシを主体とした植生が多く繁茂しています。この区間ではカワムツ、オイカワなどの松浦川でよく見られる魚種に加えてオヤニラミやアリアケギバチ、スナヤツメなどの希少種やオオヨシノボリ、カワヨシノボリなどの本水系では巖木川に特徴的な魚が見られます。また、渓流域には、カジカガエル等の両生類やミヤマカワトンボ、ヤマサナエなどのトンボ類が生息しています。鳥類では、メダケを主体とした河畔林にカワセミやヤマセミが見られます。

下流部は、低山に囲まれた平地を緩やかに流下します。河床は主に砂礫で構成されていますが、5km付近から上流は岩盤が露出しています。河床勾配は1/300~1/400と比較的急勾配ですが、所々に取水堰が存在し、上流は湛水区間となっています。河川周辺は農地が主体となっていますが、国道沿いや合流点付近には住家が密集しています。高水敷はほとんど存在しませんが、川幅は比較的広く、砂礫河原が発達しており、ツルヨシ群落を主体とした植生が存在し、多様な水際空間を形成しています。河道は瀬・淵が形成され、アユやオイカワなどが生息し、浦の川橋下流には砂礫床があり、アユの産卵場となっています。



図 2.3.7 巖木川横断模式図

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題



写真 2.3.38 厳木川下流部の状況

(厳木川 2/000～3/000 付近：唐津市相知町)

低山に囲まれた平地を緩やかに蛇行し、瀬と淵を形成しながら、流下します。砂礫で構成された河道はアユの産卵場となっています。



写真 2.3.39 厳木川上流部の状況

(厳木川 9/000～10/000 付近：唐津市厳木町)

上流部は早瀬が卓越する山地溪流河川で、蛇行しながら流下します。



写真 2.3.40 厳木ダム



写真 2.3.41 厳木川下流部のアユ産卵場

(厳木川 1/200 付近＜浦の川橋下流＞：唐津市相知町)

河床は砂礫で構成されており、アユの産卵場となっています。河岸はツルヨシ群落等が形成されています。



写真 2.3.42 厳木川下流部の溪流環境

(厳木川 6/600 付近＜町切堰下流＞：唐津市厳木町)

厳木川中流部では、河道内に岩が露出し、河岸には沢山の植生が繁茂しています。



写真 2.3.43 厳木川上流部の溪流環境

(厳木川 13/000 付近＜天山橋付近＞：唐津市厳木町)

比較的高い山に囲まれた中を、急勾配で流下します。早瀬が卓越し、河岸にはツルヨシ群落が繁茂しています。



写真 2.3.44 オヤニラミ

【スズキ目スズキ科】

体は太短く、全長は 13cm 位です。水の比較的きれいな、やや流れのある水深 50cm 前後の岸近くで生息し、肉食性で小型の水生昆虫などを主に捕食します。

○環境省：絶滅危惧Ⅱ類
○佐賀県：絶滅危惧Ⅱ類種



写真 2.3.45 アリアケギバチ

【ナマズ目ギギ科】

全長 15～25cm で、九州西部および長崎県壱岐などの、清澄で自然の多く残されている河川に生息し、石垣の間などに潜んでいます。

○環境省：準絶滅危惧
○佐賀県：絶滅危惧Ⅱ類種



写真 2.3.46 カジカガエル

【カエル目アオガエル科】

灰色がかった褐色が基本で不規則な暗色の模様を持ち、川幅の広い溪流や湖沼とその周辺の河原、樹林に生息しています。

○佐賀県：準絶滅危惧種



写真 2.3.47 グンバイトンボ

【モノサシトンボ科】

オスの足が白いグンバイ様の形をしていることからグンバイトンボと呼ばれます。山沿いの湧水地や緩やかな清流にしか生息できません。

○環境省：準絶滅危惧
○佐賀県：準絶滅危惧種

2 松浦川の現状と課題

2. 3 河川環境の現状と課題

表 2.3.1(1) 松浦川水系で確認された特定種*

区分	科名	番号	種名	特定種の選定基準			確認箇所	
				環境省RL	佐賀県RL	干潟RDB	河川区間での確認	厳木ダムでの確認
哺乳類	リス科	1	ムササビ		情報不足種		●	●
		2	スミスネズミ		情報不足種		●	●
	ネズミ科	3	ハタネズミ		情報不足種		●	●
		4	カヤネズミ		準絶滅危惧種		●	●
鳥類	サギ科	1	ミゾゴイ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
		2	ササゴイ		絶滅危惧Ⅰ類種		●	●
		3	チュウサギ	準絶滅危惧			●	●
	カモ科	4	オシドリ	情報不足	準絶滅危惧種		●	●
		5	トモエガモ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧種		●	●
	タカ科	6	ミサゴ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類種		●	●
		7	ハチクマ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
		8	オオタカ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
		9	ツミ		絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
		10	ハイタカ	準絶滅危惧	準絶滅危惧種		●	●
		11	サシバ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
	ハヤブサ科	12	ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類種		●	●
	キジ科	13	ヤマドリ		情報不足種		●	●
	クイナ科	14	ヒクイナ	絶滅危惧Ⅱ類			●	●
	シギ科	15	オオジシギ	準絶滅危惧			●	●
	フクロウ科	16	アオバズク		準絶滅危惧種		●	●
		17	フクロウ		準絶滅危惧種		●	●
	ヨタカ科	18	ヨタカ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
	カワセミ科	19	ヤマセミ		絶滅危惧Ⅰ類種		●	●
		20	アカショウビン		絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
	ホオジロ科	21	ノジロ	準絶滅危惧			●	●
	サンショウクイ科	22	サンショウクイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
爬虫類	スッポン科	1	スッポン		情報不足種		●	●
爬虫類	ヘビ科	2	ジムグリ		情報不足種		●	●
両生類	サンショウウオ科	1	カスミサンショウウオ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧種		●	●
		2	ブチサンショウウオ	準絶滅危惧	準絶滅危惧種		●	●
	イモリ科	3	イモリ	準絶滅危惧			●	●
	ヒキガエル科	4	ニホンヒキガエル		情報不足種		●	●
		5	タゴガエル		情報不足種		●	●
	アカガエル科	6	ヤマアカガエル		絶滅危惧Ⅰ類種		●	●
		7	トノサマガエル		情報不足種		●	●
	アオガエル科	8	カジカガエル		準絶滅危惧種		●	●
陸上昆虫類等	トタテグモ科	1	キシノウエトタテグモ	準絶滅危惧			●	●
		2	キノボリトタテグモ	準絶滅危惧	情報不足種		●	●
	マダラカゲロウ科	3	キマダラカゲロウ		絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
	イトトンボ科	4	ムスジイトトンボ		準絶滅危惧種		●	●
		5	ベニイトトンボ	絶滅危惧Ⅱ類			●	●
	モノサシトンボ科	6	グンバイトンボ	準絶滅危惧	準絶滅危惧種		●	●
	ヤンマ科	7	サラヤンマ		準絶滅危惧種		●	●
	サナエトンボ科	8	ホンサナエ		準絶滅危惧種		●	●
		9	アオサナエ		準絶滅危惧種		●	●
	トンボ科	10	マイコアカネ		絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
	コオイムシ科	11	コオイムシ	準絶滅危惧			●	●
	ゼミ科	12	ハルゼミ		準絶滅危惧種		●	●
	ハナカメムシ科	13	ズイムシハナカメムシ	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足種		●	●
	ツチカメムシ科	14	ベニツチカメムシ		準絶滅危惧種		●	●
	キンカメムシ科	15	アカスジキンカメムシ		情報不足種		●	●
	セセリチョウ科	16	ミヤマチャバネセセリ		準絶滅危惧種		●	●
	ヤガ科	17	アオモンギンセダカモクメ		情報不足種		●	●
	オサムシ科	18	スナハラゴミムシ	準絶滅危惧			●	●
魚類	ヤツメウナギ科	1	スナヤツメ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
		2	ウナギ	情報不足			●	●
	ウナギ科	3	ヤリタナゴ	準絶滅危惧			●	●
		4	アブラボテ	準絶滅危惧			●	●
		5	カゼトゲタナゴ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
		6	カワヒガイ	準絶滅危惧			●	●
		7	ヤマトシマドジョウ	絶滅危惧Ⅱ類			●	●
	ドジョウ科	8	アリアケギバチ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
	サケ科	9	サケ		絶滅のおそれのある地域個体群		●	●
		10	ヤマメ	準絶滅危惧			●	●
	メダカ科	11	メダカ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
	スズキ科	12	オヤニラミ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
	ハゼ科	13	ヒモハゼ	準絶滅危惧			●	●
		14	マサゴハゼ	絶滅危惧Ⅱ類			●	●

※特定種：下記の資料の掲載種及び、貴重または保護すべき種として指定されている種。平成5年度～平成19年度における調査結果から整理した。

- ・国、県及び市町指定による天然記念物
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（通称：種の保存法）
- ・環境省報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて（平成18年12月）」
- ・環境省報道発表資料「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて（平成19年8月）」
- ・佐賀県「佐賀県レッドリスト2003」
- ・「WWF Japan サイエンスレポート第3巻」－日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状－（財）世界自然保護基金日本委員会(1996)

2 松浦川の現状と課題
2.3 河川環境の現状と課題

表 2.3.1(2) 松浦川水系で確認された特定種*

区分	科名	番号	種名	特定種の選定基準			確認箇所	
				環境省RL	佐賀県RL	干潟RDB	河川区間での確認	厳木ダムでの確認
底生動物	タニシ科	1	マルタニシ	準絶滅危惧			●	
		2	オオタニシ	準絶滅危惧			●	
	ミズゴマツボ科	3	ミズゴマツボ	準絶滅危惧	情報不足種	絶滅寸前	●	
		4	モノアラガイ	準絶滅危惧			●	●
	オカモノアラガイ科	5	ナガオカモノアラガイ	準絶滅危惧			●	
	ヒラマキガイ科	6	ヒラマキミズマイマイ	情報不足			●	●
		7	クルマヒラマキガイ	絶滅危惧Ⅱ類			●	●
		8	ヒラマキガイモドキ	準絶滅危惧			●	
	イシガイ科	9	トンガリササノハガイ	準絶滅危惧			●	
	チドリマスオ科	10	クチバガイ	準絶滅危惧			●	
	ニコウガイ科	11	ユウシオガイ			危険	●	
	シオサザナミ科	12	ハザクラガイ			危険	●	
		13	オチバガイ			危険	●	
	カワホトトギス科	14	マゴコロガイ			絶滅寸前	●	
	フナガタガイ科	15	ウネナシトマヤガイ	準絶滅危惧		危険	●	
	シジミ科	16	ヤマトシジミ	準絶滅危惧			●	
		17	マシジミ	準絶滅危惧			●	●
	マルスダレガイ科	18	ハマグリ			危険	●	
	ハナグモリ科	19	ハナグモリガイ	絶滅危惧Ⅱ類			●	
	オキナガイ科	20	ソトオリガイ			危険	●	
	スナガニ科	21	マキトラノオガニ			希少	●	
		22	アリアケモドキ			希少	●	
		23	ハクセンシオマネキ	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足種	危険	●	
	カブトガニ科	24	カブトガニ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類種	危険	●	
	ヒメドロムシ科	25	ヨコモゾドロムシ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧種		●	
植物	ラン科	1	エビネ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
		2	キンラン	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧種		●	●
		3	シュンラン		準絶滅危惧種		●	●
		4	ナツエビネ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	●
	ミズニラ科	5	シナミズニラ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類種		●	
	トクサ科	6	イヌドクサ		絶滅危惧Ⅰ類種		●	●
	オンダ科	7	ナチクジャク		絶滅危惧Ⅰ類種		●	●
	スジヒトツバ科	8	スジヒトツバ		準絶滅危惧種		●	
	アカザ科	9	マツナ		絶滅危惧Ⅰ類種		●	
		10	ハママツナ		準絶滅危惧種		●	
	キンボウゲ科	11	タンナトリカブト		絶滅危惧Ⅱ類種			●
	メギ科	12	バイカイカリソウ		準絶滅危惧種			●
	オトギリソウ科	13	ツキヌキオトギリ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類種			●
	アブラナ科	14	ワサビ		絶滅危惧Ⅱ類種			●
		15	コイヌガラシ	準絶滅危惧			●	
	バラ科	16	ワレモコウ		準絶滅危惧種		●	
	ミツハギ科	17	ミズマツバ	絶滅危惧Ⅱ類			●	
	アリノトウグサ科	18	フサモ		準絶滅危惧種		●	
	セリ科	19	ツクシトウキ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧種			●
	リンドウ科	20	イヌセンブリ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類種		●	
	ガガイモ科	21	トキワカモメヅル		絶滅危惧Ⅰ類種			●
	ヒルガオ科	22	マメダオシ	絶滅危惧ⅠA類			●	
	クマツヅラ科	23	コムラサキ		準絶滅危惧種		●	
	シソ科	24	マネキグサ	準絶滅危惧				●
		25	ヒメキセウタ	絶滅危惧Ⅱ類			●	
		26	ミゾコウジュ	準絶滅危惧			●	
	ナス科	27	イガホオズキ		準絶滅危惧種			●
		28	ヤマホオズキ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類種		●	
	ゴマノハグサ科	29	スズメハコベ	絶滅危惧Ⅱ類			●	
		30	カワヂシャ	準絶滅危惧			●	
	タヌキモ科	31	イヌタヌキモ	準絶滅危惧			●	
	キキョウ科	32	ツルギキョウ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧種			●
	キク科	33	イワヨモギ	絶滅危惧Ⅱ類				●
		34	ウラギク	絶滅危惧Ⅱ類			●	
		35	オナモミ	絶滅危惧Ⅱ類			●	
	トチカガミ科	36	ミズオオバコ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧種		●	
	ヒルムシロ科	37	センニンモ		準絶滅危惧種		●	
		38	イトモ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類種		●	
	イバラモ科	39	サガミトリゲモ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類種		●	
	アヤメ科	40	ヒオウギ		絶滅危惧Ⅱ類種		●	
		41	アヤメ		絶滅種		●	
	イネ科	42	サヤヌカグサ		絶滅危惧Ⅱ類種		●	
		43	イヌアワ		絶滅危惧Ⅰ類種		●	
	ガマ科	44	コガマ		準絶滅危惧種		●	●
	カヤツリグサ科	45	イトスゲ		準絶滅危惧種			●
		46	ムギガラガヤツリ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅰ類種		●	
		47	ツクシテンツキ	絶滅危惧Ⅱ類			●	
	シャジクモ科	48	シャジクモ	絶滅危惧Ⅱ類				●

※特定種：下記の資料の掲載種及び、貴重または保護すべき種として指定されている種。平成5年度～平成19年度における調査結果から整理した。

- ・国、県及び市町指定による天然記念物
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（通称：種の保存法）
- ・環境省報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて（平成18年12月）」
- ・環境省報道発表資料「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて（平成19年8月）」
- ・佐賀県「佐賀県レッドリスト2003」
- ・「WWF Japan サイエンスレポート第3巻」－日本における干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状－（財）世界自然保護基金日本委員会(1996)

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題

(3) 河川環境上の課題

① 河道改修による川の多様性の消失

自然状態の川の地形は複雑であり、水深や流速といった物理的環境が多様性に富んでいます。このような複雑な地形がもたらす多様な水の流れや周辺環境とのつながりが生物の生息・生育を支えています。しかし、河道の直線化や定期的な台形断面化、護岸の整備等によって、流路の蛇行、瀬・淵などの川の働きで形成される複雑な地形が失われ、河道の物理的構造の単純化、河川の連続性や自由度の低下が生じるといわれています。

松浦川においても、これまでの改修により、河道の直線化や護岸の整備が行われており、川の多様性が消失している箇所も見られます。このようなことから、近年においては、「多自然川づくり」による河川改修を実施しています。

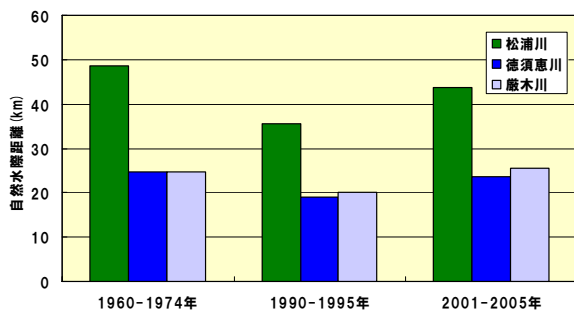


図 2.3.8 自然水際距離の変化

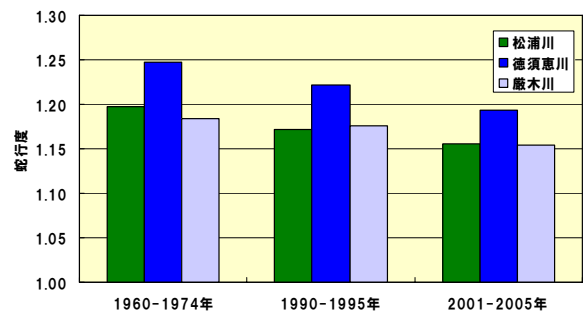


図 2.3.9 蛇行度の変化

蛇行度 = 直線距離 / 流心距離



松浦川：佐里地区



徳須恵川：水留地区

写真 2.3.48 固定化された水際部



巖木川：田頭地区

写真 2.3.49 多自然川づくりの事例



松浦川：大川野地区

② 魚類等の移動からみた河川の連続性の分断

堰等の河川横断工作物や樋門等の一部は、河川及び河川と農業用施設（水路など）の連続性を分断し、魚類等の移動の妨げになる可能性があります。松浦川本川および支川徳須恵川、巖木川においては、魚類等の移動を阻害している堰や樋門等が多く存在し、漁業関係者からも魚道の設置について要望されています。



写真 2. 3. 50 縦断的連続性を分断した固定堰
(巖木川：立草下堰)



写真 2. 3. 51 横断的連続性を分断した樋門

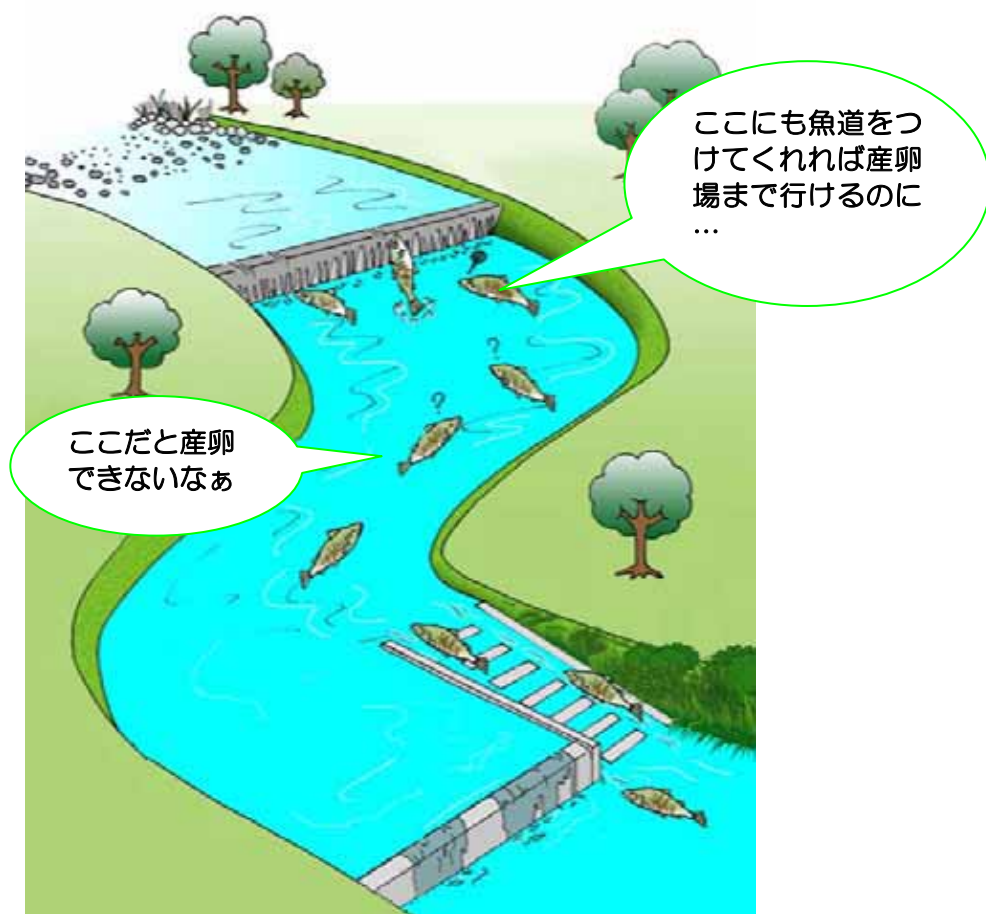


図 2. 3. 10 河川の連続性の分断模式図

(出典：魚がのぼりやすい川づくりの手引き)

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題

③ 氾濫原的湿地の消失

堤防がない時代には、水田などの湿地は川とつながっており、生物にとっては良い産卵場や生息場でした。洪水時に川の水があふれてできるこのような湿地（氾濫原的湿地）は、かつて松浦川にも多く存在していました。

しかし、これまでの水田開発や河川改修等による氾濫原的湿地の大幅な減少に伴い、湿地に依存する動植物や人と生物のふれあう機会が少なくなっています。

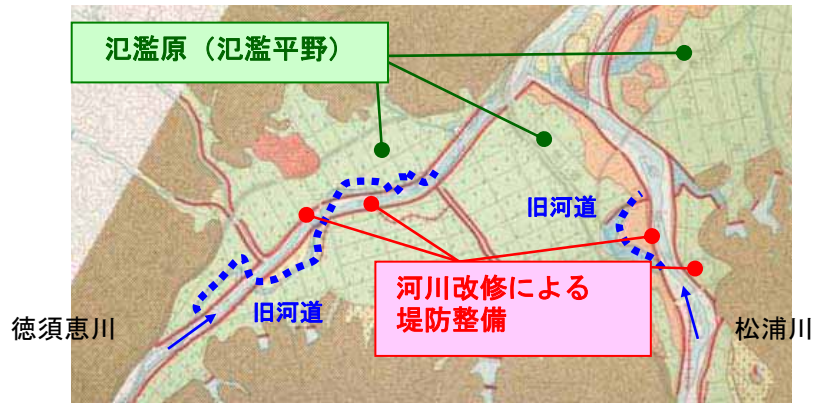


図 2.3.11 河道の変遷模式図

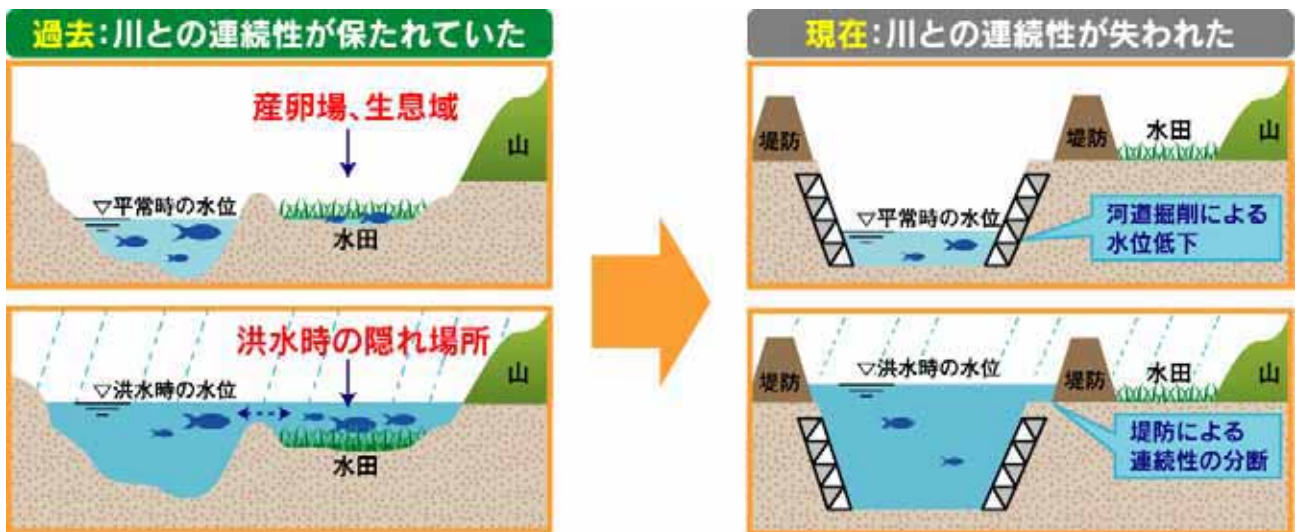


図 2.3.12 湿地と川との連続性模式図

④ 外来種生物の増加

外来種は、人間が意図的・非意図的に持ち込んだことにより、在来種を減少させたり、在来種と交雑することによって、在来種の絶滅の可能性を高めるなどの問題を引き起こす恐れがあります。松浦川においても、オオクチバスやブルーギル、オオキンケイギクやアレチウリなどの外来種が多数確認されており、増加が懸念されています。

このうち、オオクチバスやブルーギルなどは、平成17年に施行された「特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律」（通称：外来生物法）により、「特定外来生物」に指定されており、飼育や運搬の制限や防除を進めることとしています。

また、佐賀県では「佐賀県環境の保全と創造に関する条例」に基づき、指定された移入規制種について、放つたり、植栽したり、種子をまいたりすることを禁止しています。

なお、松浦川で確認された外来種^{※1}は49種で、そのうち、環境省の特定外来生物は8種、佐賀県の移入規制種は14種です。



写真 2.3.52 オオクチバス

【スズキ目サンフィッシュ科】
北アメリカ原産で、1925年に日本へ移入されました。放流された水域の生態系を著しく改変することが明らかになっています。

表 2.3.2 松浦川水系で確認された特定外来生物
および移入規制種^{※2}

区分	種名	外来種の選定基準		確認箇所	
		外来生物法	佐賀県条例	河川区間での確認	厳木ダムでの確認
鳥類	ソウシチョウ	特定外来生物		●	●
爬虫類	ミシシippiacamimigame		移入規制種	●	●
両生類	ウンガエル	特定外来生物		●	●
魚類	オオクチバス	特定外来生物	移入規制種	●	
	タイリクバラタナゴ		移入規制種	●	
	ブルーギル	特定外来生物	移入規制種	●	●
植物	アレチウリ	特定外来生物		●	
	イタチハギ		移入規制種	●	
	オオカナダモ		移入規制種	●	
	オオキンケイギク	特定外来生物	移入規制種	●	●
	オオブサモ	特定外来生物	移入規制種	●	
	オニウシノケサ		移入規制種	●	●
	コカナダモ		移入規制種	●	
	コンテリクラマゴケ		移入規制種	●	
	ナガエツルノゲイトウ	特定外来生物		●	
	ハリエンジュ		移入規制種		●
	ヒメヒオウギズイセン		移入規制種	●	●
	ホテイアオイ		移入規制種	●	



写真 2.3.53 ブルーギル

【スズキ目サンフィッシュ科】
北アメリカの中東部に分布し、1960年に日本に移入されました。浮遊動物や水生昆虫、エビ、水生植物などを好み、季節によっては、魚の卵や小魚なども食べる雑食性の魚です。



写真 2.3.54 オオキンケイギク

【キク科】
河川敷等でみられるキク科の多年生草本で、強靱な性質のため全国的に野生化し、在来生態系への影響が危惧されています。

※1 松浦川で確認された外来種：以下の資料に掲載の種として抽出した。
・「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年6月/環境省）」のうち、特定外来生物、未判定外来生物および要注意外来生物に指定の種。
・「佐賀県環境の保全と創造に関する条例（平成18年4月/佐賀県）」の移入規制種に指定の種。
・「移入種（外来種）の対応方針について（平成14年8月/野生生物保護対策検討会移入種問題分科会）」のうち生物多様性への影響をおよぼす移入種に指定の種。

※2 松浦川水系で確認された特定外来生物および移入規制種：以下の資料に掲載の種として抽出した。
・「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年6月/環境省）」
特定外来生物：外来生物（移入種）のうち、特に生態系等への被害が認められるもの。
・「佐賀県環境の保全と創造に関する条例（平成18年4月/佐賀県）」
移入規制種：県内の生態系に影響を及ぼしている、または今後影響を及ぼす恐れが高い種。

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題

⑤ 河口部の環境変化

松浦川河口部は、河口から松浦大堰にかけて内湾状の閉鎖的な汽水域となっており、干潮時には広大な砂質干潟が出現し、ハクセンシオマネキやマゴコロガイ等の希少な生物が生息しています。また、水際部にはハマツナやシオクグ等の塩生植物群落が存在します。

しかし、市街化の進展に伴う流入河川の水質の悪化や河川改修、砂利採取等により、河道形状や河床材料といった物理環境や生態環境が変化していることが懸念されています。また、河口部には、カキ礁が多く存在しており、景観や漁業、舟運等に影響を及ぼしているという声が聞かれますが、その一方で、カキは水質を浄化する働きや水産資源の増加に寄与しているといわれています。



写真 2.3.55 松浦川河口部の状況と
カキ礁が発達している区域



写真 2.3.56 カキ礁の状況

⑥ 水質

松浦川水系の水質は、河川の代表的な水質指標である BOD^{※1}（75%値）^{※2} でみると、環境基準値^{※3} をほぼ満足しており、概ね良好な水質を維持しています。水質に関する顕著な問題は発生していませんが、松浦大堰湛水区間に位置する久里橋地点においては、一部水質が環境基準を満足しない場合があります。

厳木ダム貯水池についても、水質指標である BOD（75%値）の値を満足しています。しかし、近年ダム貯水池流入河川の全窒素（T-N）濃度が上昇傾向にあり、これに伴いダム貯水池の全窒素（T-N）濃度についても上昇傾向にあるため、今後の富栄養化現象の発生が懸念されます。

松浦川では、昭和 48 年に水質環境基準が指定されたのを受け、昭和 56 年に「松浦川流域別下水道整備総合計画」が策定され、目標年次を平成 7 年として、下水道整備を進めてきました。その後、平成 7 年に目標年次を平成 17 年に変更して、継続して下水道整備を進めており、現在の流域内下水道普及率は 52%（平成 16 年 3 月現在）です。

このように現時点においては、松浦川の水質は環境基準値を概ね満足しているものの、下流の唐津市を中心とした臨海工業地域の工場進出やそれに伴う都市化等により家庭排水の増加、関連企業からの排水等により排出負荷が増加することも予想されます。

表 2.3.3 環境基準類型指定の状況

名称	水域	基準地点	類型 ^{※4}	達成期間 ^{※5}	指定年月日	摘要
松浦川水系の松浦川	松浦川全域	久保橋（和田山橋）	河川 A	イ	S48.6.1	
	松浦川全域	荒瀬橋（牟田部）	河川 A	イ	S48.6.1	
	松浦川全域	潮止堰（久里橋）	河川 A	イ	S48.6.1	
松浦川水系の徳須恵川	徳須恵川全域	田中川合流（徳須恵橋）	河川 A	イ	S48.6.1	
松浦川水系の厳木川	厳木川全域	山崎橋（浦の川橋）	河川 A	イ	S48.6.1	

※1 BOD：生物化学的酸素要求量。水中の汚れ（有機物）などを微生物が食べて、分解するときに必要とされる酸素量のことです。この値が大きいほど川は汚れており、川のきれいさを判定する方法として一番使われています。

※2 75%値：年間の日平均値が全データをその値の小さいものから順に並べ 0.75×n 番目（n は日間平均値のデータ数）のデータ値（データ数が 12 の場合は 9 番目の値）。当該値が基準値を満足することをもって、当該測定値において環境基準に適合しているとみなすこととされています。

※3 環境基準値：人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準で国が設定します。

※4 類型：河川 AA BOD 濃度 1mg/L 以下，河川 A BOD 濃度 2mg/L 以下，河川 B BOD 濃度 3mg/L 以下

※5 達成期間：イ 直ちに達成，ロ 5 年以内で可及的速やかに達成

2 松浦川の現状と課題
 2.3 河川環境の現状と課題



図 2.3.13 松浦川における環境基準類型指定区分及び水質調査地点位置図

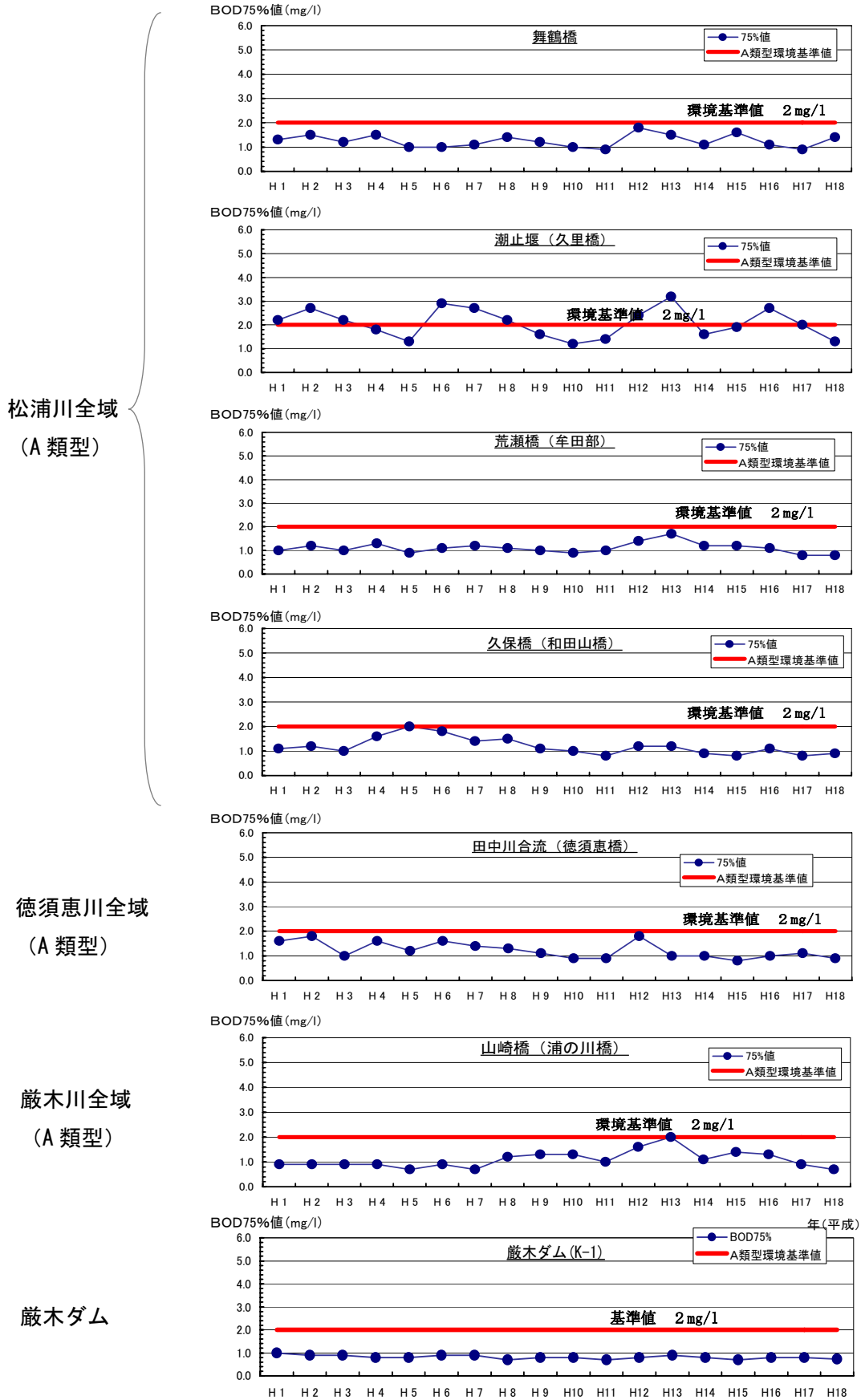


図 2.3.14 各水質調査地点における水質経年変化

2 松浦川の現状と課題
 2.3 河川環境の現状と課題

2.3.2 河川空間

(1) 河川空間の利用

平成 18 年度に松浦川の国管理区間で実施した「河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）」による河川空間利用者数は年間約 31.6 万人で、散策、水遊び、釣りなど多岐にわたり、多くの人に利用されています。このことは、松浦川が環境学習や自然体験の場、憩いの場として、川や自然とふれ合える親しみやすい河川空間であることを示しています。

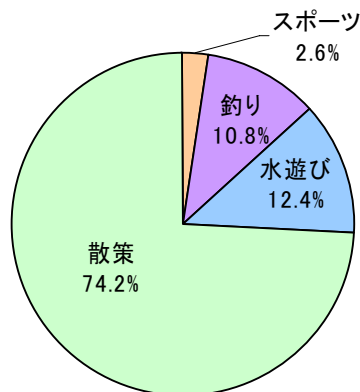
松浦川は、地域の住民団体等による河川愛護の啓発活動など、河川を軸とした様々な活動が展開されており、今後、水辺とのふれあいの場や河川空間を利用した自然体験や環境学習の場のさらなる確保が求められています。

表 2.3.4 松浦川における年間の河川空間利用状況

区分	項目	年間利用人数 (推定値) (人)	割合 (%)
利用形態別	スポーツ	8,200	2.6
	釣り	34,100	10.8
	水遊び	39,200	12.4
	散策	234,900	74.2
	計	316,400	100.0
利用場所別	堤防	143,100	45.2
	高水敷	100,000	31.6
	水際	43,900	13.9
	水面	29,400	9.3
	計	316,400	100.0

(出典：平成 18 年度河川水辺の国勢調査＜河川利用実態調査＞)

【利用形態別の利用者割合】



【利用場所別の利用者割合】

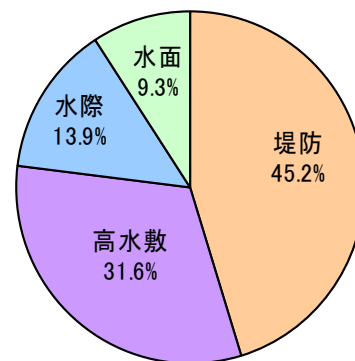


図 2.3.15 松浦川の河川空間利用状況（利用形態別と利用場所別）

①上流部（源流から中松浦鉄道橋までの区間）

源流から国管理区間上流端までの区間は、黒髪山県立自然公園をはじめ、川古のクス（天然記念物）などが存在する自然豊かな地域であり、森林・水辺のいこいの場として、多くの観光客に利用されています。

国管理区間上流端から中松浦鉄道橋までの区間は、周辺の低山に囲まれたやや開けた平地であり、水辺の楽校として整備されている桃川親水公園や駒鳴地区などでは、子供達が川遊びや水遊びをする姿が見られ、釣りなどにも利用されています。また、桃川親水公園では、地域の方々の取り組みにより、数多くのホテルが見られるようになっています。



写真 2.3.57 黒髪山

武雄市山内町と有田町にまたがります。標高 516m。山の北部では、夫婦岩の雄岩と雌岩が谷を隔ててそそり立っています。



写真 2.3.58 桃川親水公園

人と生物が共生する空間として、地域住民から親しまれています。

② 中流部（中松浦鉄道橋～松浦大堰湛水区間上流端）、巖木川、徳須恵川

中流部では、自然体験、環境学習や各種イベントが行われ、市民のいこいの場となっています。特に、松浦川中流 16km 右岸では、「アザメの瀬自然再生事業」が実施されており、コイ、フナ、ドジョウなど昔あちこちに見られた生物の生息、生育する氾濫原的湿地の再生に取り組んでおり、環境学習や市民団体の交流の場として利活用が行われています。

徳須恵川においては、4k400 左岸付近の高水敷に水辺の楽校が整備され、堤防天端はジョギングや散策、また、湛水区間を利用したカヌー教室、夏祭り等のイベントに利用されています。



写真 2.3.59 アザメの瀬での自然体験

人と生物がふれあえる場として、地域住民から親しまれています。

2 松浦川の現状と課題

2.3 河川環境の現状と課題

厳木川の下流部においては、桜つづみを利用した散策、中流部では地域団体による町切水車の保存と合わせた活動、上流部では「きゅうらぎ川あゆまつり」といったイベント等が行われています。

また、厳木ダム湖周辺には、遊歩道が整備され、ダム湖上流のスポーツ公園では、毎年7月に少年野球大会が開催されており、厳木ダム周辺においても、さまざまな形で地域の方々に利用されています。



写真 2.3.60 水辺の楽校を利用した
カヌー教室

(徳須恵川：唐津市北波多・水辺の楽校)



写真 2.3.61 きゅうらぎ川あゆまつり

厳木川では、アユやヤマメが生息しており、アユのつかみどり大会などが催され、多くの家族連れで賑わいます。



写真 2.3.62 スポーツ公園での
少年野球大会

(厳木ダム)



写真 2.3.63 ダム湖畔の遊歩道

(厳木ダム)

③ 下流部（松浦大堰湛水区間）

支川徳須恵川から松浦大堰までの区間は、その大部分が松浦大堰の湛水区間となり、流域最大の人口を有する唐津市街地を緩やかに流れています。

広い河川空間は緑地公園や運動公園、サイクリングロードなどの日常的利用のほかに、花火大会や各種イベントにも利用されており、人々の憩いの場、集いの場として盛んに利用されています。また、松浦大堰の湛水部では、ボート利用が盛んに行われています。



出典：唐津百景、唐津市
写真 2.3.64 水面に映える唐津城と花火

7月に行われる唐津市民花火大会では、毎年約17万人の市民、観光客が訪れ、熱気と感動につつまれます。



写真 2.3.65 大堰湛水部でのボート練習

大堰湛水域では、ボート利用が盛んです。平成19年度には、全国高校総体が行われました。

④ 河口部（松浦大堰から河口までの区間）

観光都市唐津の中心部を貫流し、そこに広がる広大な水面は唐津城とあいまって唐津を代表する景勝空間となっており、唐津市民や観光客に広く愛されています。また、河口域は、広大な砂質干潟が形成され、貴重な生物の生息空間となっており、自然観察の場としても利用されています。



写真 2.3.66 生物観察会の様子



図 2.3.16 河口干潟部での自然観察会の新聞記事 (H17.9.9: 唐津新聞)

平成17年5月に地域住民による「松浦川を親しむ会」が発足され、河口部干潟での生物観察会等が行われるなど、河川利用が盛んに行われています。

2 松浦川の現状と課題

2. 3 河川環境の現状と課題

松浦川における地域活動

団体名	活動拠点	活動概要
厳木町 飲む水を考える研究会	厳木川	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳木川松浦川の川上から流れてゆく飲み水30箇所の水質検査を2月と9月の水量の少ないとき、水質検査を会員70名で行う。 ・ 小学校の子供達と川の中の生物の研究を行う。 ・ 川を汚さないように子供達と話し合い、合成洗剤を使わない石けんづくりをする。 ・ 年2回マイクロバスで各地の川を回り研修する。
自然と暮らしを考える研究会	厳木川一帯	水車復元に取り組んでいる。また用水路とほぼ並行に流れる河川沿い(町切堰の下流300m)の環境整備(草刈りと清掃等)を地区有志で行うなどして、小中高の総合学習の場として利活用している。また、仮称「水車の里・水辺と田んぼの学校」の推進を提言し、その協議会が設置されているがその実現に向け、各団体、機関などとの研修会や相互連携にも参加しての人材育成にも努めている。
松浦川を親しむ会	松浦川河口域	<p>子供達を中心に地域の人々が気軽に遊びながらふれあい、交流をすることにより、体験活動・ボランティア活動などを推進し、「豊かな人間性の確立」、「自然環境を大切にす」そして「ふるりの再発見」の為に青少年の育成を図り、昔の自然豊かな松浦川の復活と賑わいのある町づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松浦川でのボランティア活動(清掃活動等) ・ 環境調査(観察会等) ・ 松浦川を拠点とした交流会(イベント等)
アザメの会	唐津市相知町アザメの瀬周辺	アザメの瀬自然再生事業と連携を取りながら、地元の子供達に対し堤返し(溜池干し)やイダ嵐見学(川を遡上してきたウグイの産卵)といった水に関わる昔からの行事や、延縄等を使った生物調査等を行って自然の大切さを教えている。
虹の松原七不思議の会	唐津市	<p>関係行政機関との連携を図りながら、松露が自生できる環境保全に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会 ・ 虹の松原ウォークラリー ・ 「七不思議ウォーキングマップ」「虹の松原豆知識」の作成及び配布活動
見帰り・桃源郷の会	唐津市相知町	荒れ果てた土地を整備して畑を作り、この土地に「ソバの種」を蒔き、食することにより地域おこしに繋がれようと活動している。
相知町立図書館	唐津市相知町	子供達の調べ学習に対応できるよう、環境に関する参考書を多く購入し、書架に展示している。また、一般図書も種々の環境問題を取り上げた書籍を展示している。
藤のふる里会	唐津市相知町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南川原砂防下の草刈り、清掃 ・ 五百羅漢様参道および付近の草刈り、清掃
唐津信用金庫 相知支店	唐津市相知町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和28年の西日本大水害の記録 ・ 相知町内浸水被害状況写真集
厳木小学校広川分校6年生	唐津市厳木町	総合的な学習の時間に「川」についての学習に取り組んだ。川にすむ生き物を調べたり、ダムについて調べたりする中で、川を大切にしようという気持ちを育てている。
うぶすな会	唐津市相知町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民のコミュニケーションを図り、松浦川を手作りのイカダで川下りを行う。 ・ 松浦川周辺の環境美化活動を行う。
相知町食生活改善推進協議会	唐津市相知町	食生活改善を町内各地で推進。生活習慣病、予防食の料理教室、食、農のサポーターとして地産地消への協力、開発料理の普及等に努めている。独り暮らし老人会のボランティア活動など20年余り地道な活動を町民の方々とふれあいながら実践している。
井堰まつり実行委員会	唐津市相知町	<p>横枕井堰をめぐって、わが村の歴史に触れ、春・秋の好い時期に井堰を取り入れた行事を実施し、自然を愛し故郷を語り合い町区民の豊かな人間性を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 竜王様まつり ・ 農業用水の水落としを待って周辺清掃・川のごみ拾い・ヘドロの除去の作業後川遊び体験・懇談会
カップバ連邦笑和国	徳須恵川	8月(第1日曜日)を環境の日と制定し、広く住民に対して環境に対する啓発を行っている。また、生活排水が河川を汚していることも住民に訴え、河川を身近なものとして感じてもらえるような行事も毎年実施している。上記内容を考慮して毎年徳須恵川において環境フェスタ(環境講座、カヌー教室、スチロールイカダ大会、水質検査、カヌーレース大会、バザー等)を実施。
松浦川まちづくり協議会	松浦川	松浦川改修促進期成会とともに河川敷の草刈りやゴミひろいを行っている。
松こっこ会	桃川親水公園	「サマーフェスタまつら」を開催し、町民参加の盆踊り、花火大会を行っている。

(2) 河川に流入、投棄されるゴミ等

松浦川の流域に捨てられたゴミは、洪水等により支川及び排水路等を通じて松浦川に流入することから、下流部や海岸部では、多量のゴミの処理に労力と費用を要しているとともに、河川利用や漁業、舟運等の支障になっています。松浦大堰では、特に洪水時において、堰上流に溜まったゴミの回収を行っており、処理されるゴミの量は、年間約 200m³にも及びます。

また、市街地に行くにつれ、人目につきにくい河川敷を中心に、廃棄物等の不法投棄が絶えません。不法投棄は著しく河川環境を悪化させ、場合によっては、治水上の支障ともなります。松浦川においては、平成 15 年度からのゴミマップの作成や河川巡視の強化、流域住民による河川美化活動などの取り組みにより、不法投棄の数は年々減少していますが、平成 17 年度においても 53 件の不法投棄を処理しており、不法投棄を未然に防止する更なる対策が必要です。



写真 2.3.67 松浦大堰に溜まった
ゴミの様子



写真 2.3.68 松浦大堰下流に溜まった
ゴミの様子



写真 2.3.69 松浦大堰に溜まった
ゴミの回収作業の様子



写真 2.3.70 不法投棄された
ゴミの様子



写真 2.3.71 流域住民による美化活動の様子



2.3.3 河川景観

松浦川の流れが織りなす良好な河川景観は地形、地質、気候、植生等さまざまな自然環境や人間の活動、それらの時間的・空間的な関係や相互作用、そしてその履歴等も含んだ環境の総体的な姿といえます。

松浦川中上流域は、田園風景の中を河畔林や瀬・淵を形成しながら、蛇行して流れる自然の営力が織りなす景観や旧川部等固有の生態系を有する景観、大黒井堰や馬ノ頭伏せ越し等歴史的構造物が存在し、流域の歴史・文化に関わる河川景観が特徴的です。松浦川下流域および徳須恵川下流域は、松浦大堰によって形成された広大な湛水面を有し、人工的で開放的な景観が広がっています。河口部は、歴史・文化との関わりが深い唐津城と調和した流域文化に彩られた河川景観とともに、鏡山^{かがみやま}を望む広大で連続性のある河川景観を有しています。

一方、徳須恵川上流域は、低山に囲まれた田園風景の中を河畔林や瀬・淵を形成しながら、蛇行して流れる自然の営力が織りなす景観や岩坂井堰等歴史的構造物が周辺の風景と調和した河川景観が特徴的です。また、巖木川は、良好な瀬・淵を有する溪流環境が形成され、固有の生態系を有する景観を有している一方で、町切水車に見られるように、人々の営みが反映された河川景観も見られます。

このように、松浦川には、自然の営みによって形成された瀬・淵・河畔林等中上流域の河川景観に加え、古くから大陸文化の伝来窓口として栄えた流域の歴史・文化と関わりが深い河口部や井堰を中心とした河川景観があります。このことから、河川景観等に調和した河川整備が求められています。



写真 2.3.72 自然の営力と歴史的構造物を有する上流部の河川景観



写真 2.3.73 瀬・淵を形成する中流部の河川景観

2 松浦川の現状と課題
2.3 河川環境の現状と課題



写真 2.3.74 開放的な下流部の河川景観



写真 2.3.75 鏡山を望む広大で連続性のある河口部の景観



写真 2.3.76 広大な砂質干潟を有する河口部の景観



写真 2.3.77 低山に囲まれた田園風景を流れる徳須恵川の景観



写真 2.3.78 遠景の山並みと調和した
厳木川の景観



写真 2.3.79 溪流環境が形成され、町切水車が周辺と溶け込んでいる
厳木川の景観